



学校における新型コロナウイルス感染症
に関する衛生管理マニュアル
～ 「学校の新しい生活様式」 ～

(2021.4.28 Ver.6)

【外国人学校向け】

学校における新型コロナウイルス感染症対策について

学校における新型コロナウイルス感染症対策の考え方について

学校では、「3つの密」を避ける、「人との間隔が十分とれない場合のマスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など基本的な感染対策を継続する「新しい生活様式」を導入するとともに、地域の感染状況を踏まえ、学習内容や活動内容を工夫しながら可能な限り、授業や部活動、各種行事等の教育活動を継続し、子供の健やかな学びを保障していくことが必要です。

また、国立感染症研究所によれば、変異株への対策としては、従来株と同様に、「3つの密」(特にリスクの高い5つの場面)の回避、マスクの着用、手洗いなどの基本的な感染症対策が推奨されています。感染者を一人でも多く減らしていくため、従来以上の危機意識を持って、感染症対策に取り組んでいく必要があります。

なお、変位株の感染者や地域で感染経路の不明な感染者が増加しているなど、警戒度を上げなければならない場合であっても、特に小学校及び中学校については、地域一斉の臨時休業は、当該地域の社会経済活動全体を停止するような場合を取るべき措置であり、令和3年各月の感染状況においては、家庭内感染が大部分であることを踏まえれば、学校のみを休業とすることは、学びの保障や心身への影響の観点から、避けるべきと考えます。

高校生については、家庭内以外の感染も依然として多いことから、地域の感染拡大状況に応じて、例えばマスクを着用しないで行う感染リスクの高い活動を一時的に制限するなど、生徒の発達段階に合わせた柔軟な対応を検討してください。なお、地域の社会経済活動全体の制限に併せて学校の臨時休業を検討する場合においても、時差通学や分散登校とオンライン学習を組み合わせ合わせたハイブリッドな学習等の可能性を積極的に検討し、学びの継続に取り組んでください。

また、どんなに感染症対策を行っても、感染リスクをゼロにすることはできないという事実を前提として、感染者が確認された場合には、迅速かつ的確に対処することができるよう、地方自治体内での教育委員会と衛生主管部局との連携や、学校医・学校薬剤師等の専門家と連携した学校における保健管理体制を築いていくことが重要です。

学校関係者に感染が確認された場合には、感染者や濃厚接触者である児童生徒等が、差別・偏見・いじめ・誹謗中傷などの対象にならぬよう、十分な配慮・注意が必要です。

地域ごとの行動基準

「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準

| 地域の感染レベル | 身体的距離の確保 | 感染リスクの高い 教科活動 | 部活動 (自由意思の活動) |
|----------|--------------------------------|--|---|
| レベル3 | できるだけ2 m 程度 (最低1 m) | 行わない | 個人や少人数での 感染リスクの低い活動 で短時間での活動に 限定 |
| レベル2 | 1 mを目安に 学級内で最大限の 間隔を取ること | 収束局面 ↓ 感染リスク の低い活動 から徐々に 実施 | ↑ 感染リス クの高い 活動を 停止 |
| レベル1 | 1 mを目安に 学級内で最大限の 間隔を取ること | 適切な感染対策を行った 上で実施 | 十分な感染対策を行 った上で実施 |

レベル1～3のいずれの地域に該当するかは、地域のまん延状況や医療提供体制等の状況を踏まえ、地方自治体の衛生主管部局と相談の上、学校の設置者において判断すること。また、この考え方は、特措法第31条の4第1項に基づくまん延防止等重点措置を実施すべき区域においても同様です。同区域がレベル2又はレベル3のいずれに該当するかを学校の設置者において判断し、当該レベルに応じた教育活動を実施してください。

<公立学校（大学以外）の場合の判断プロセスの一例>

- ① 教育委員会は、地方自治体の衛生主管部局と連携したり、「学校等欠席者・感染症情報システム」（公益財団法人日本学校保健会が運営）を活用したりするなどして、地域の感染情報を収集する。
- ↓
- ② ①や医療提供体制等の状況を踏まえ、地方自治体の衛生主管部局と地域区分について相談する。
- ↓
- ③ 教育委員会は、首長（知事または市区町村長）とも地域区分について相談する。
- ↓
- ④ 以上を踏まえ、地域区分を決定する。

第2章 学校における基本的な新型コロナウイルス感染症対策について

児童生徒等への指導

学校生活においては、休み時間や登下校など教職員の目が届かない所での児童生徒等の行動が大きな感染リスクとなります。まずは、児童生徒等が本感染症を正しく理解し、感染のリスクを自ら判断し、これを避ける行動をとることができるよう指導を行うことが必要です。

なお、幼児については、自ら衛生対策を十分に行うことは難しいため、大人が援助や配慮を行います。

また、児童生徒等には、感染症対策用の持ち物として、一般的には次のものが必要となります。

【各自に必要な持ち物】

- ・ 清潔なハンカチ・ティッシュ
- ・ マスク
- ・ マスクを置く際の清潔なビニールや布等



基本的な感染症対策の実施

感染症対策の 3つのポイントを踏まえ、取組を行います。

- ・ 感染源を絶つこと
- ・ 感染経路を絶つこと
- ・ 抵抗力を高めること

(1) 感染源を絶つこと

発熱等の風邪の症状がある場合には、児童生徒等も教職員も、自宅で休養することを徹底します（レベル3及びレベル2の地域では、同居の家族に風邪症状が見られる場合も登校させないようにしてください）。

(2) 感染経路を絶つこと

新型コロナウイルス感染症は、一般的には飛沫感染、接触感染で感染します。閉鎖空間で、近距離で多くの人と会話するなどの環境では、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされています。感染経路を絶つためには、手洗い、咳エチケット、清掃・消毒が大切です。

手洗い

手洗いの6つのタイミング



咳エチケット



清掃・消毒

普段の清掃・消毒のポイント

- ・ 大勢がよく手を触れる箇所（ドアノブ、手すり、スイッチなど）は 1 日に 1 回、水拭きした後、消毒液を浸した布巾やペーパータオルで拭きます。なお、児童生徒等の手洗いが適切に行われている場合には、これらの作業を省略することも可能です。
- ・ 器具・用具や清掃道具など共用する物については、使用の都度消毒を行うのではなく、使用前後に手洗いをを行うよう指導します。

（参考）児童が下校時に自分の机を清掃している様子



感染者が発生した場合の消毒について

- ・ 児童生徒等や教職員の感染が判明した場合には、当該感染者が活動した範囲を特定して汚染が想定される物品（当該感染者が高頻度で触った物品）を消毒用エタノールまたは 0.05% の次亜塩素酸ナトリウム消毒液により消毒するようにします。
- ・ 物の表面についたウイルスの生存期間は、付着した物の種類によって異なりますが、24 時間～72 時間くらいと言われており、消毒できていない箇所は生存期間を考慮して立ち入り禁止とするなどの処置も考えられます。

(3) 身体全体の抵抗力を高めること

身体全体の抵抗力を高めるため、「十分な睡眠」、「適度な運動」及び「バランスの取れた食事」を心がけるよう指導します。



集団感染のリスクへの対応

新型コロナウイルス感染症では、

- ・ 換気の悪い密閉空間
- ・ 多数が集まる密集場所
- ・ 間近で会話や発声をする密接場面

という3つの条件(3つの密(密閉、密集、密接))が重なる場で、集団感染のリスクが高まるとされています。この3つの条件が同時に重なる場を避けることはもちろんですが、3つの密が重ならない場合でも、リスクを低減するため、できる限りそれぞれの密を避けることが望ましいとされます。

(1) 「密閉」の回避(換気の徹底)

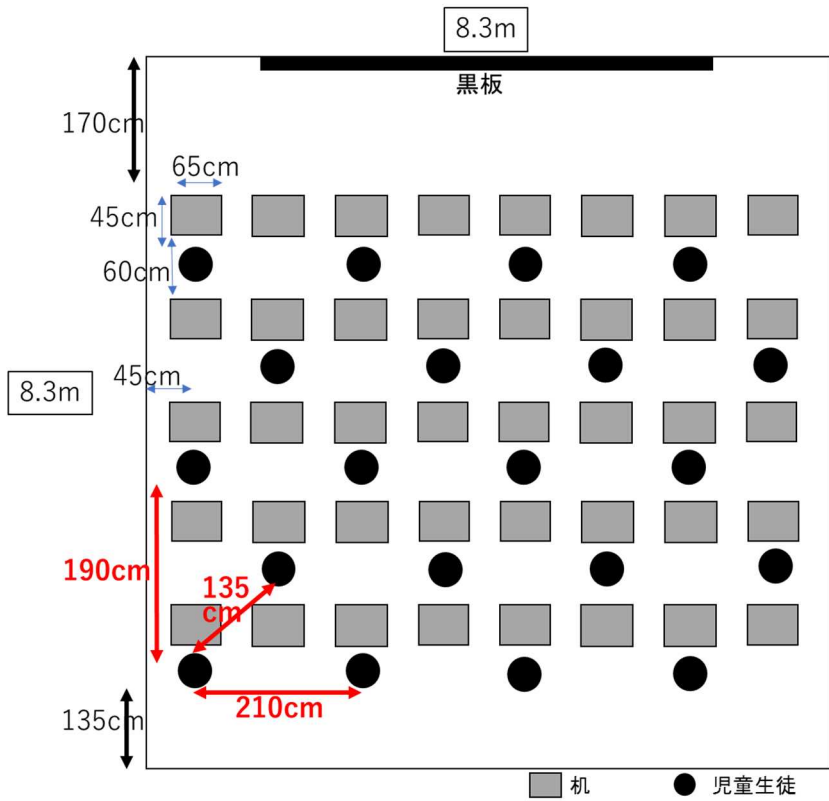
換気は、気候上可能な限り常時、困難な場合はこまめに(30分に1回以上、数分間程度、窓を全開する)、2方向の窓を同時に開けて行うようにします。授業中は必ずしも窓を広く開ける必要はありませんが、気候、天候や教室の配置などにより換気の程度が異なることから、必要に応じて換気方法について学校薬剤師等と相談します。

(2) 「密集」の回避(身体的距離の確保)

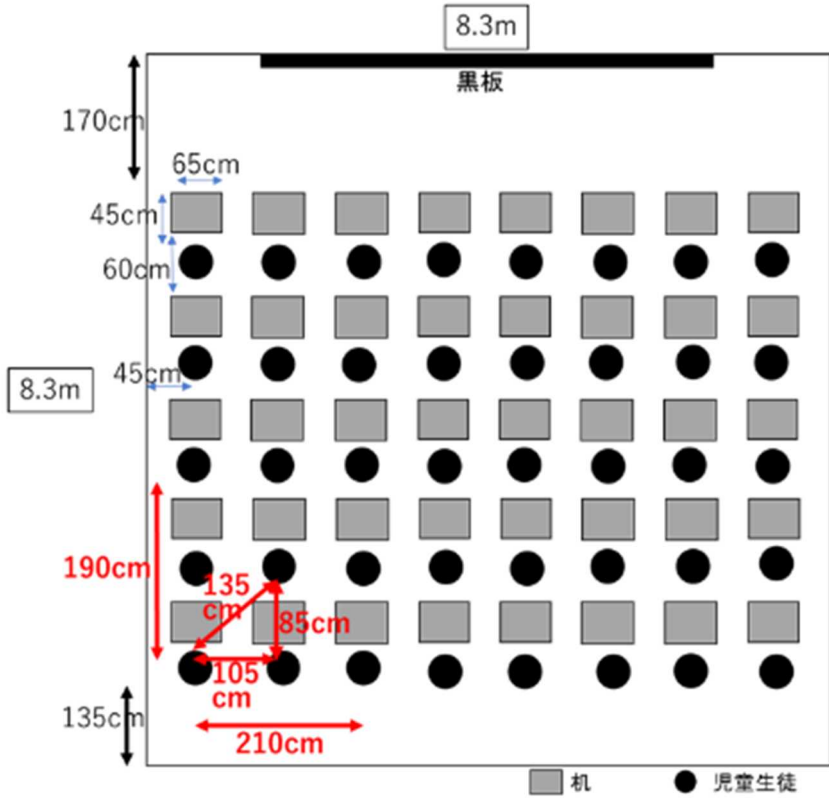
「新しい生活様式」では、人との間隔は、できるだけ2メートル(最低1メートル)空けることを推奨しています。感染が一旦収束した地域であっても、学校は「3つの密」となりやすい場所であることには変わりなく、可能な限り身体的距離を確保することが重要です。

新規感染者や感染経路不明の感染者が多数確認されている地域においては、「3つの密」を徹底的に避ける必要性も高まるため、レベル3の地域では、身体的距離の確保を優先して分散登校の導入などの工夫を行っていただく必要があります。

(参考) レベル3 地域 (1 クラス 20 人の例)



(参考) レベル1・2 地域 (1 クラス 40 人の例)



(3) 「密接」の場面への対応（マスクの着用）

マスクの着用について

学校教育活動においては、児童生徒等及び教職員は、身体的距離が十分とれないときはマスクを着用すべきと考えられます。

ただし、マスクの着用については、学校教育活動の態様や児童生徒等の様子などを踏まえ、以下のとおり臨機応変に対応してください。

1) 十分な身体的距離が確保できる場合、マスクの着用は不要です。

2) 気温・湿度や暑さ指数（WBGT）¹が高い日には、熱中症などの健康被害が発生するおそれがあるため、マスクを外してください。

マスクの取り外しについては、活動の態様や児童生徒等の様子なども踏まえ、現場で臨機応変に対応することが重要です。

児童生徒等本人が暑さで息苦しいと感じた時などには、マスクを外したり、一時的に片耳だけかけて呼吸したりするなど、自身の判断でも適切に対応できるように指導します。

幼児については、正しく着用できているか、マスク着用によって息苦しくないかどうかについて、教職員及び保護者が十分に注意することが大切です。

3) 体育の授業においては、マスクの着用は必要ありません。ただし、十分な身体的距離がとれない状況で、十分な呼吸ができなくなるリスクや熱中症になるリスクがない場合には、マスクを着用しましょう。

(参考) フェイスシールド・マウスシールドの活用について

フェイスシールドやマウスシールドの感染防止効果については、密閉度も不十分であり、マスクに比べ効果が弱いと言われており、これらのみで学校内で過ごす場合には、身体的距離をとるようにします。

マスクの取扱いについて

マスクを外す際には、ゴムやひもをつまんで外し、手指にウイルス等が付着しないよう、なるべくマスクの表面には触れず、内側を折りたたんで清潔なビニールや布等に置くなどして清潔に保ちます。

¹ 暑さ指数（WBGT）とは、気温・湿度・輻射熱の3つを取り入れた暑さの厳しさを示す指標で、熱中症の発生と関連しています。

マスクを廃棄する際も、マスクの表面には触れずにビニール袋等に入れて、袋の口を縛って密閉してから廃棄します。

出席停止等の取扱い

学校における出席停止等の取扱いは以下の通りです。なお、海外から帰国・再入国した児童生徒等について、政府の水際対策の取組として一定期間自宅等での待機の要請の対象となっている者は、当該待機の時間を経ていることを確認した上で、健康状態に問題がなければ登校させて構いません。

| | |
|-----------------|---|
| 学校に来ることが禁止される場合 | <ul style="list-style-type: none">・感染が判明した者・感染者の濃厚接触者に特定された者・発熱等の風邪症状がみられる者・（レベル2や3の地域において）同居の家族に発熱等の風邪の症状がみられる者 |
| 学校に来なくて良いとされる場合 | <ul style="list-style-type: none">・医療的ケア児や基礎疾患児について、登校すべきでないと判断された場合・感染が不安で休ませたいと相談のあった児童生徒等について、生活圏において感染経路が不明な患者が急激に増えている地域で、同居家族に高齢者や基礎疾患がある者がいるなどの事情があって、他に手段がない場合など、合理的な理由があると校長が判断する場合 |

児童生徒等及び教職員の心身状況の把握、心のケア等

国立成育医療研究センターが令和2年11月～12月に行った「コロナ×こどもアンケート」第4回調査報告によれば、小学校4年生以上の15%～30%の子供に中程度以上のうつ症状があることが示されており、子供たちの心のケアは引き続き重要な課題となっています。

学級担任や養護教諭等を中心としたきめ細かな健康観察等により、児童生徒等の状況を的確に把握するとともに、学校医と連携した健康相談等の実施や、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等による心理面・福祉面からの支援など、管理職のリーダーシップのもと、関係教職員がチームとして組織的に対応してください。また、新型コロナウイルス感染症に関連したストレス、いじめ、偏見等に関し、相談窓口を適宜周知してください。

併せて、学校現場で感染症対策や心のケア等を最前線で支える教職員の精神面の負担にも鑑み、学校の管理職や設置者等は、教職員のメンタルヘルスにも十分配慮してください。

教職員の感染症対策

教職員の感染症対策についても、児童生徒等と同様に行います。

寮や寄宿舎における感染症対策

寮や寄宿舎は児童生徒が集団生活を行う場であり、共用施設なども多く、大人数が日常生活を送る場であることから、平時から健康管理や感染症対策、感染者発生時の対応について学校医や関係機関と検討し、十分な注意を持って用意をしておく必要があります。主な留意点は以下のとおりです。

(平常時)

- ・居室を2人以上の共用としている場合、自室内での常時マスク着用は現実的ではないため、咳エチケットの徹底と近距離での大声での会話を避ける。
- ・トイレの手を拭くタオルは共用としない。
- ・共用設備(給水機、自動販売機など)や下駄箱、ドアノブ、便器の接触面、トイレレバー、蛇口ハンドルなど複数の人が頻繁に触る部分は定期的な(1日数回)消毒を行うようにする。

(発熱や体調不良者が発生した場合)

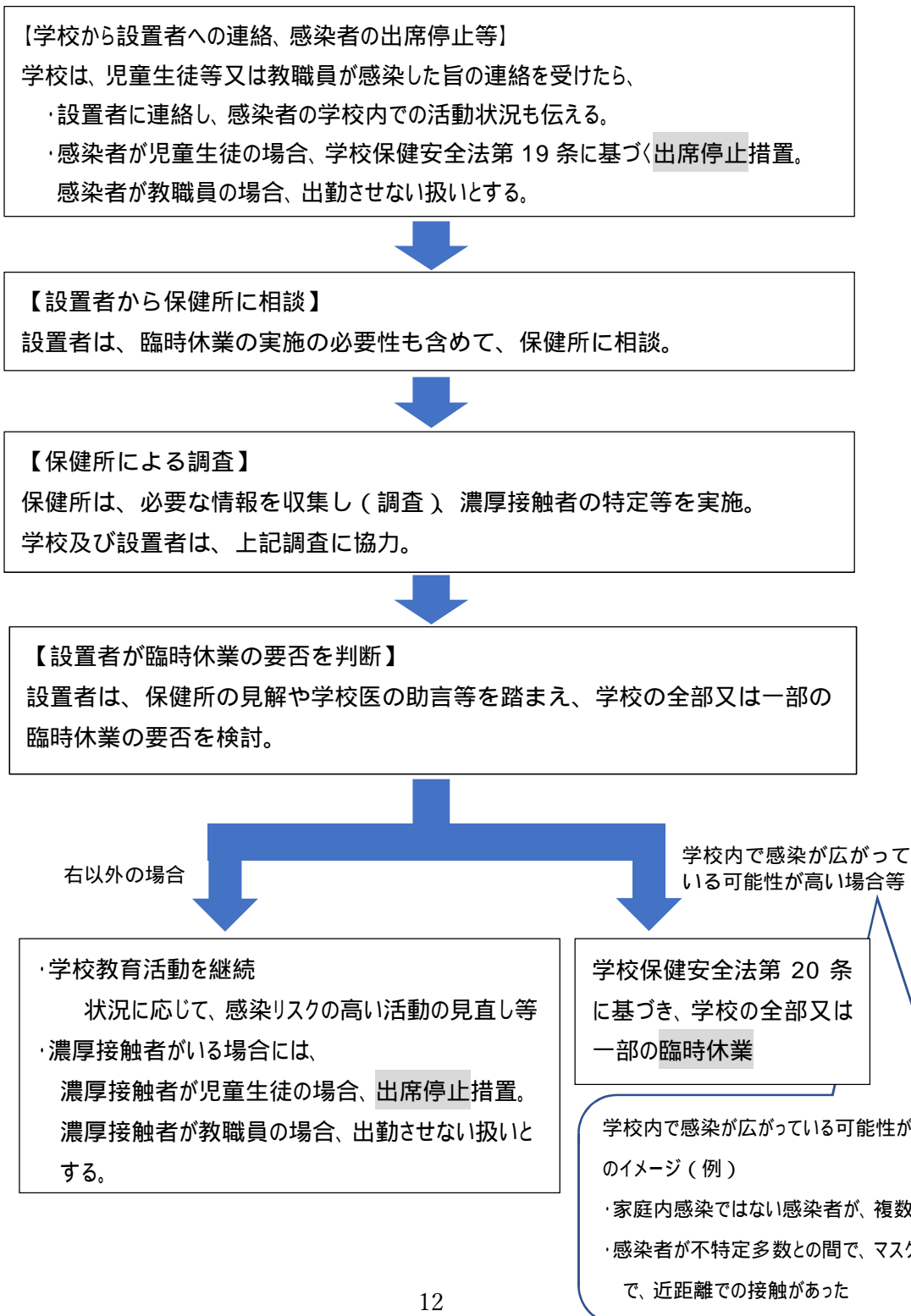
- ・居室内(可能なら個室)に隔離する。
- ・すぐに症状がおさまっても、主要症状消退後2日を経過するまで、個室等に確保し、部活動や寮生活等の集団活動には参加させない。
- ・体調不良者が同時に複数名以上(例えば3名以上)発生した場合には、学校医又は医療機関に相談する。

(新型コロナウイルス感染症疑い例が発生した場合)

- ・個室に隔離する。
- ・個室が確保できない場合は、本人及び同室者に常時マスクを着用させ、部屋の換気に努める。1m以上の距離をとり、会話や接触をできる限り避ける。
- ・できる限り共用スペースを使用しないようにし、使用する場合はほかの居住者と使用時間をさけ、疑い例の使用前後に当該物品の消毒を行う。

児童生徒等又は教職員の感染が判明した場合のフロー

本フローは、学校教育法第一条に定める学校における対応方針として作成したものです。学校保健安全法が必ずしも適用されない外国人学校・インターナショナルスクールにおいても、感染者の発生が判明した際の対応方針として是非ご活用ください。





New School Lifestyle COVID-19 Infection
Control Manuals and Guidelines for Schools

(April 28, 2021 Ver.6)

[For International Schools]



Countermeasures to prevent the spread of COVID-19 within schools

Basic policies for preventing of the COVID-19 in schools

Schools need to adopt the new lifestyle, which are basic infection prevention measures such as avoiding the 3Cs (Closed spaces, Crowded places and Close-contact settings), wearing masks when adequate physical distance cannot be maintained, and washing hands.

Furthermore, it is important for schools to continue lessons, club activities, school events and other educational activities and to ensure a healthy learning environment for children while taking countermeasures against COVID-19 depending on local infection situation.

Furthermore, the National Institute of Infectious Diseases recommends handling variant strains by taking countermeasures in the same way that the original strain was handled, namely with basic countermeasures against COVID-19 such as avoiding the 3Cs (and especially the five high-risk situations), wearing masks, and washing hands. To reduce the number of infected people, it is necessary to take countermeasures against the disease with an even greater sense of crisis than before.

Even though the level of vigilance may have to be raised depending on the situation with COVID-19 in the region, such as when the number of infections with new variants or infections with unknown transmission is increasing, in the case of elementary schools and junior high schools, in particular, region-wide temporary school closures are a measure that should be taken when, for example, all socioeconomic activity in the region is to be suspended. Given that in each of the months of 2021 most infections have occurred within the home, we believe that just closing schools should be avoided, as it interferes with learning and affects mental and physical health.

As for high school students, infections outside the home remain at a high level, so please consider the infection situation in your region and respond flexibly based on the level of development of the students concerned. For example, temporarily limiting activities during which masks are not worn, may pose a high risk of infection. And even in cases when considering a temporary school closure in conjunction with regional restrictions on socioeconomic activity, please try to continue students' learning activity. For example, an institution may actively explore the possibility of

pursuing a hybrid approach, whereby students come to school at different times, classes come on different days, and online instruction is also provided.

In addition, whatever measures to prevent infection are taken, it is impossible to reduce the risk of infection to zero. With this fact as a premise, it is important to cooperate with board of education and public health management bureau within the local governments and to put a together a health management structure at the school that involves experts such as school physicians and school pharmacists, so as to ensure that prompt and proper action can be taken in case someone is infected.

In the case, if someone in the school is infected, it is required to be careful not to cause discrimination, prejudice, bullying and defamation against a student who is infected or who has had close contact with infected person.

Regional codes of conduct

Standards for action in schools based on the new lifestyle

| Regional infection level | Physical distance | School activities with high infection risk | Club activities (voluntary activities) |
|--------------------------|---|---|---|
| Level 3 | 2m if possible (at least 1m) | Do not carry out | Limit activities to individual or small-group ones that are low risk and carried out for a short period of time |
| Level 2 | With 1m as a guideline, maximize distance inside classrooms | Conduct gradually, starting with low-risk activities Infections declining ↓ ↑ Infections rising Suspend high-risk activities | Gradually start with low-risk activities, and ensure that a teacher checks how the activities are carried out |
| Level 1 | With 1m as a guideline, maximize distance inside classrooms | Carry out while taking appropriate measures to prevent infection | Carry out with sufficient measures to prevent infection |

Note: Which of the levels 1-3 the region corresponds to will be determined by the school establisher(local government or education corporation) after consulting with the local government's public health management bureau in light of the number of local infections, the systems for delivering medical care, etc. Furthermore, this approach is also applied to districts that are targeted to Priority Preventive Measures stipulated to Article 4, Paragraph 1 of the Special Measures Act. The school establisher should decide whether the regional infection level is 2 or 3, and then conduct educational activities in accordance with the level.

<Example determination process in case of public school (other than university)>

① The board of education gather information about infections in the region by cooperating with the local government's public health management department, utilizing an electronic system for each school to enter information on infected people, which makes it possible to collect information centrally, and so on.



② In light of ① and medical situation etc. regional classifications will be discussed with the local government's public health management department.



③ The board of education discusses regional classifications with the head of region (governor of prefecture or mayor of municipality).



④ Based on the above, the regional classification is determined.

Chapter 2. Basic Infection Prevention Measures in Schools

Guidance to students

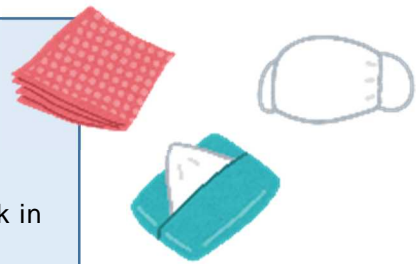
At schools, behavior of students without the direct supervision of teachers and staff, such as during break times and when going to and from school, poses a major risk to the spread of infection. First, it is necessary to teach students about this disease in order to correctly understand it, make their own judgements concerning infection risk, and behave in such a way as to avoid such risk.

In the case of kindergartners, it is difficult for them to take adequate hygiene measures themselves, so support and attention from adults are necessary.

In addition, students generally need to carry the following items as means of preventing infection:

[Items that each student needs to carry]

- Clean handkerchief and tissues
- Mask
- Clean plastic, cloth, etc. wallet to put the mask in



Implementation of basic infection prevention measures

It is important to implement infection prevention measures based on the following three points:

- **Cutting off sources of infection**
- **Cutting off routes of infection**
- **Building up immunity**

(1) Cutting off sources of infection

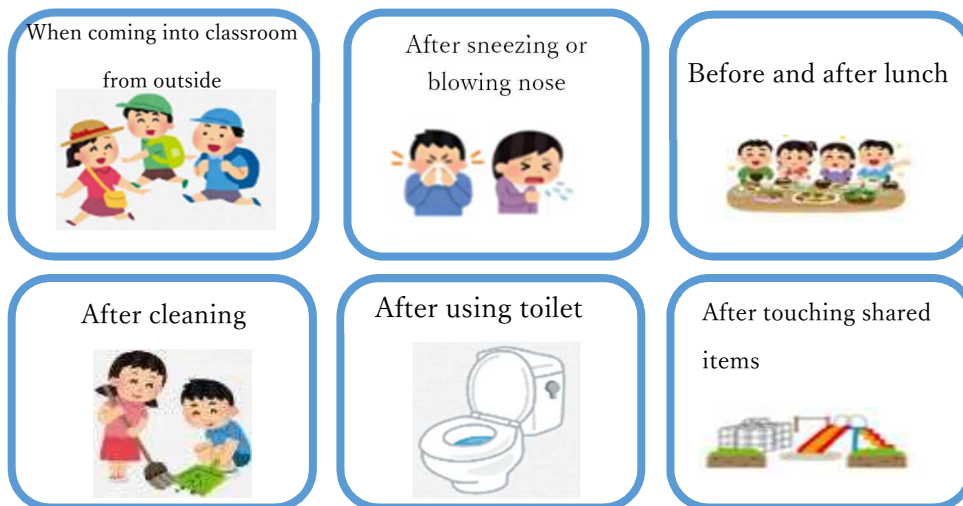
If a student or teacher / staff member has cold-like symptoms such as fever, he / she must stay at home. (In Level 3 and Level 2 areas, students who live with their family members with such symptoms should also not be allowed to go to school.)

(2) Cutting off routes of infection

COVID-19 is generally transmitted in these ways: **droplet transmission** or **contact transmission**. In environments such as close-range conversations, there is a risk of spreading infection even without any symptoms. To cut off infection routes, it is important to (1) wash hands, (2) practice coughing manners, and (3) clean and disinfect surfaces.

Washing hands

Six timings to wash hands



Coughing etiquette



Cleaning and disinfection surfaces

○Key points for routine cleaning/disinfection

- Places and surfaces that many students and others often touch (door knobs, handrails, electric switches, etc.) should be cleaned with damp cloths once a day and then wiped with cloths or paper towels soaked in a disinfectant. However, if students are washing their hands properly, these tasks can be omitted.
- For items for common use like equipment, tools, cleaning implements, etc., students should wash their hands before and after they use them each time without needing to use disinfectants.
- Reference: Children cleaning their desks before leaving school



○Disinfection after someone has been infected

- If students or teachers / staff members are infected, areas in which they went should be identified, and items that are likely to be contaminated (i.e. items that the infected person handled frequently) should be disinfected with rubbing alcohol or a 0.05%-concentration solution of sodium hypochlorite.

- The period of time that the virus can survive on the surfaces of objects depends on the type of object, but is said to be between 24 and 72 hours. So if there are areas that cannot be disinfected, there is also a method of keeping out areas that are not disinfected considering virus survival time.

(3) Building up immunity by enhancing overall physical health

Encourage students to build up their immunity by enhancing their overall physical health, such as by getting enough sleep, taking proper exercise, and eating a balanced diet.



Reducing the risk of clusters

The risk of the occurrence of cluster is higher in the following three conditions (3Cs):

- **Closed spaces with poor ventilation**
- **Crowded places with many people nearby**
- **Close-contact settings such as close-range conversations**

It is obviously crucial to keep “3Cs” from overlapping, but even when not all 3Cs are overlapped, it is preferable to avoid each “C” as much as possible

(1) Avoiding *closed spaces* (ensuring proper ventilation)

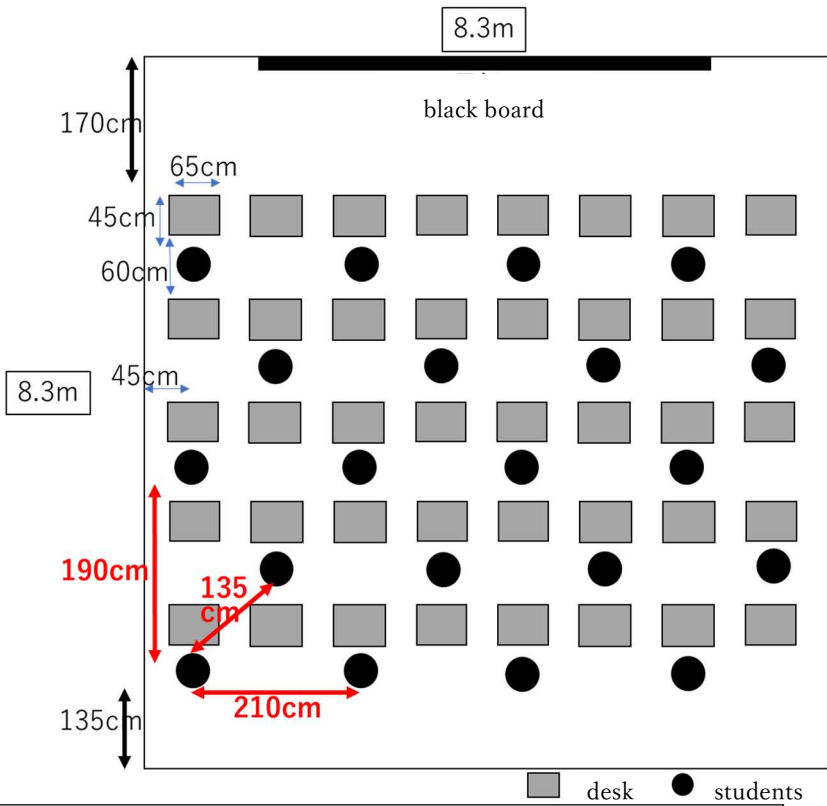
Spaces should be ventilated by simultaneously opening windows in two directions at all times as far as weather permits. If it does not, they should be ventilated frequently (windows should be fully opened for several minutes once every 30 minutes at least). Windows don't necessarily have to be kept fully open during lessons, but if necessary, each school should consult about ventilation methods with a school pharmacist etc. considering the climate, weather, location of the classroom, and so on.

(2) Avoiding *crowded places* (keeping physical distance)

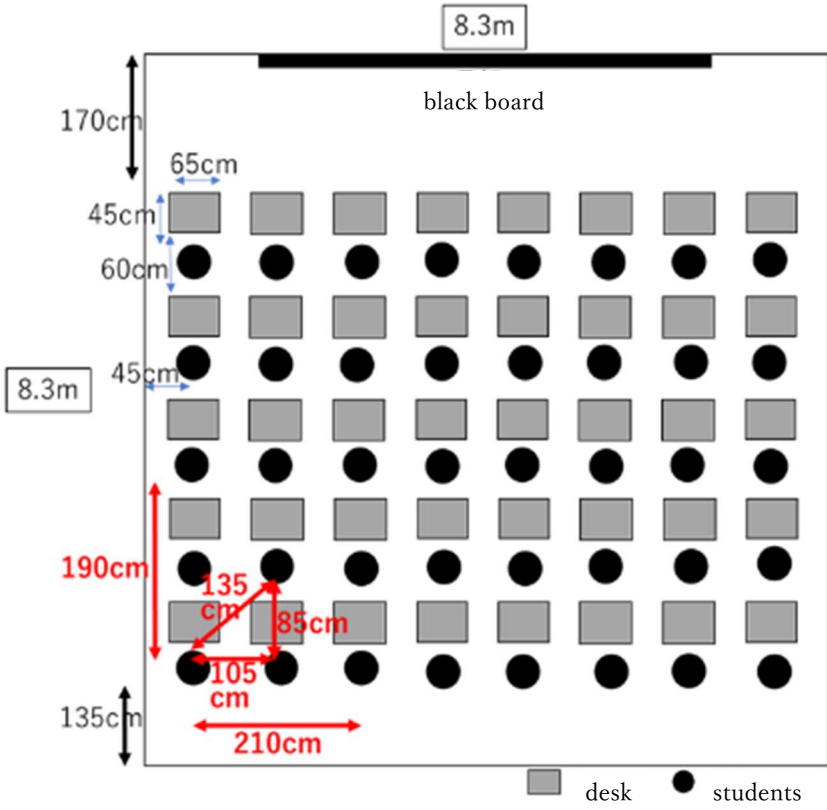
In the new lifestyle, it is preferable to keep a distance of two meters as much as possible (at least one meter) between two persons. Even in regions where the disease is no longer spreading, schools are still places in which the 3Cs are apt to occur, so it is important to keep physical distance.

In regions in which there are a large numbers of new infections and infection with unknown transmission, it is even more essential to avoid the 3Cs. In Level-3 areas, it is vital to make efforts to reduce the risk such as dividing attendance to keep physical distance.

Reference: Level-3 area (example of 20 students per class)



Reference: Level-1/2 area (example of 40 students per class)



(3) Avoiding close-contact settings (wearing masks)

Wearing masks

At schools, students and teachers/staff **should wear masks when physical distance cannot be adequately maintained.**

However, with regard to the wearing masks, please make decisions flexibly based on the situation as follows, and after taking into account the nature of educational activities at the school, the conditions of the students, etc.

- 1) When adequate physical distance can be maintained, masks are not required.
- 2) when the temperature/humidity or heat index (WBGT)¹ is high, please remove masks because there is a risk of heatstroke etc.**

(It is important to decide whether or not to wear masks in light of circumstances such as the types of activities and conditions of students etc.)

(It is necessary to instruct students to pull masks away from their face and dangle from one ear for a while by themselves when students find it difficult to breathe due to the heat.)

(In the case of kindergarteners, it is important for teachers/staff and parents to care to ensure that they are wearing their masks correctly and are able to breathe comfortably.)

- 3) students do not need to wear masks in PE classes. However, in situations where physical distance is not enough, and situations where there is no risk of being unable to breathe properly or of suffering heatstroke, they should wear masks.**

Reference: Use of face shields and mouth shields

Unlike masks, face shields and mouth shields do not fit snugly against the skin, and are thus said to be less effective for preventing infection. If they are worn alone (without a mask underneath) in school, physical distance should be maintained.

¹ The heat index (WBGT: wet-bulb globe temperature) is a measure of heat intensity that reflects the three factors of temperature, humidity, and heat radiation. It is correlated with the likelihood of heatstroke.

Handling of masks

When removing a mask, do so by gripping the rubber band or string, and avoid touching the surface of the mask so as to prevent virus particles etc. adhering to the fingers. Fold the mask inwards and place it in a clean plastic, cloth, etc. to keep it clean.

And when disposing of a mask, place it in a plastic bag etc. without the surface of the mask. Tie up the opening of the bag to seal it, and then throw it away.

Suspension of attendance

Suspension of attendance at schools should be handled as follows. Note that students who have returned to Japan from overseas will be asked to quarantine at home or elsewhere for a certain period as part of the government's measures to prevent pathogens coming in from abroad, but these students can come to school once it is confirmed that the quarantine period is over and provided that there are no issues with their health.

| | |
|---|--|
| Cases in which coming to school is prohibited | <ul style="list-style-type: none"> • Infected Person • Person who has a close contact with an infected person • Person who has cold-like symptoms such as fever • (In Level-2 and -3 areas) Person with co-habiting family member exhibiting cold-like symptoms such as fever |
| Cases in which not coming to school is acceptable | <ul style="list-style-type: none"> • In case of children requiring constant medical care or child with medical problem, who are said not go to school • In case the parents do not want their children to go to school due to concerns about infection. Also, when the school principal deems that the parents' reason is acceptable, especially under the following circumstances — the students live in an area where the number of infections with unknown transmission is increasing rapidly, the family living with the student includes an elderly or a person with a pre-existing condition, and there is no better alternative, etc. |

Assessment of mental and physical condition and mental health care, etc. of students etc. and teachers.

According to the report on the fourth survey of the "Corona and Children Questionnaire" conducted by the National Center for Child Health and Development from November to December 2020, 15% to 30% of children in the fourth grade of elementary school or above have moderate or severe symptoms of depression, and mental health care for children continues to be an important issue.

Under the leadership of school administrators, the relevant teachers and staff should work together systematically as a team to accurately grasp the situation of students etc. through detailed health observation by homeroom teachers and school nurses, health counseling in cooperation with school doctors, and psychological and welfare support by school counselors and school social workers. In addition, please announce as

necessary who to contact for counselling concerning stress, bullying, prejudice, etc. related to COVID-19.

At the same time, given the mental burden on teachers and staff working on the frontline in the fight against the disease, the provision of psychological care, etc. at schools, school administrators, establishers, etc. should give due consideration to the mental health of teachers and staff.

Measures to prevent infection among teachers/staff

Measures to prevent infection among teachers/staff should be the same as those for students etc.

Measures to prevent infection in dormitories

Because dormitories are places where students live communally, where is numerous shared facilities, and where large numbers of people spend their daily lives together, it is necessary for the school to work with school physicians and relevant agencies to consider what health management and infection-prevention measures to take at normal time and what measures to take when an infection occurs, and to then prepare the relevant measures with adequate care. The main points to keep in mind are as follows:

At normal period:

- It is unrealistic to expect students to wear masks in their rooms at all times, so if each room is shared by two or more students, encourage them to practice coughing manners and not converse loudly at close range.
- Towels for wiping hands after using the toilet should not be shared.
- Shared facilities (water fountains, vending machines, etc.) as wells as parts that are touched frequently by multiple individuals, such as shoe racks, doorknobs, toilet surfaces, toilet lever, and faucet handles, should be disinfected regularly (several times each day).

When someone has fever or feels unwell:

- Isolate them in their room (a private room if possible).
- Even if symptoms disappear soon, secure a private room etc. for them and do not allow them to participate in communal activities such as club activities and dormitory activities until two days have passed since their main symptoms subsided.

- If multiple persons (e.g. three or more persons) are feeling unwell at the same time, consult a school physician or medical institution.

When someone is suspected of being infected:

- Isolate them in a private room.
- If a private room is unavailable, have them and their roommate(s) wear masks at all times, and ventilate the room. Maintain a distance of at least 1m, and minimize conversation and interactions.
- Avoid using shared spaces as much as possible, and if the infected person use the spaces, ensure that use is at a different time from use by other persons. Also disinfect the relevant items before and after their use by a person suspected of being infected.

Flow chart when students or teachers / staff members are infected

Note: This flow chart was prepared as an action policy for schools as defined in Article 1 of the School Education Act, but schools for foreign students and international schools, to which the School Health and Safety Act does not necessarily apply, are also strongly encouraged to use it as an action policy in the event that someone at the school is found to have been infected.

[School contacts the school establisher (local governments or education cooperation) and suspends the attendance of the infected person]

When the school has been informed that a student or teacher / staff member has been infected, it should:

- Inform the school establisher and tell them about the activities that the infected person had engaged in at the school.

- If the infected person is a student, **suspend their attendance** pursuant to Article 19 of the School Health and Safety Act*.

If the infected person is a teacher / staff member, do not allow them to come to work.

*According to the miscellaneous school, School Health and Safety Act in not adopted.



[School establisher consults the public health center]

The school establisher consults the local public health center to discuss, for example, whether the school needs to be closed temporarily.



[Investigation by public health center]

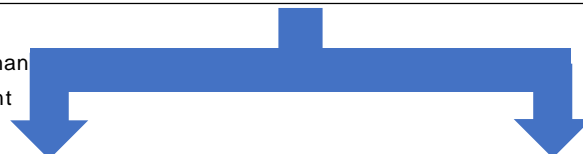
The public health center gathers the information it needs (i.e. conducts an investigation) to identify people who has had close contacts with the infected person. The school and the establisher cooperate with the above investigation.



[Decision by school establisher on whether to temporarily close school]

The school establisher considers, in view of opinions from the public health center, advice from a school physician etc., whether all or part of the school needs to be closed temporarily.

Cases other than those on the right



Cases such as where infections are highly likely to be spreading within the school

- Continue school education activities
(Depending on the circumstances, consider whether to halt activities with a high risk of infection)

- If there are close contacts of the infected person:

- If a close contact is student, **suspend their attendance**.

- If a close contact is a teacher or staff member, do not allow them to come to work.

Temporarily close all or part of the school pursuant to Article 20 of the School Health and

Examples of situations in which infections are highly likely to be spreading within the school:

- There are several infected persons who do not become infected in their homes

- Without wearing a mask, the infected person interacted at close range with a large number of unidentified persons.



Protocolo Sanitário para Contenção e Controle da Infecção pelo Novo Coronavírus (Covid-19) nas Escolas

~ Novo Estilo de Vida Escolar ~

(28.4.2021 Ver.6)

【Para escolas estrangeiras】

Ministério da Educação, Cultura, Esportes, Ciências e Tecnologia



Medidas Preventivas contra Covid-19 nas escolas

■ Conceito das medidas preventivas contra Covid-19 nas escolas

As escolas devem continuar a evitar as “três condições de risco”(locais fechados, espaços lotados e ambientes de contato próximo entre as pessoas), enfatizando o “uso de máscaras quando não for possível, assegurar uma distância suficiente entre as pessoas”, a “lavagem e/ou higienização das mãos” e outras práticas básicas de higiene introduzidas pelo “novo estilo de vida” para evitar a infecção, mas ao mesmo tempo, considerando a situação do nível da infecção da região, devem dar continuidade à aprendizagem, incluindo as aulas, atividades de clubes, a realização de eventos e outros, e na medida do possível, inovar os conteúdos de estudo e das atividades educativas para garantir a aprendizagem saudável e segura das crianças.

Além disso, de acordo com o Instituto Nacional de Doenças Infecciosas, em termos de medida contra as variantes mutantes, da mesma forma que a cepa original é necessário evitar as três condições de risco (principalmente as cinco situações de alto risco) e implementar as medidas básicas para prevenção da infecção, tais como o uso de máscara, lavagem das mãos, etc. E para reduzir ao máximo o número de pessoas infectadas, é necessário seguir as medidas de prevenção com uma maior consciência em relação aos riscos do que antes.

Mesmo que o governo tenha elevado o nível de alerta, devido ao aumento do número de pessoas infectadas pelas variantes mutantes e/ou de pessoas infectadas por rota de infecção desconhecida, o fechamento temporário de todas as escolas da região, particularmente as escolas primárias e ginásiais, é uma medida que deve ser tomada apenas em situações como interrupção de todas as atividades socioeconômicas da região. Considerando-se que a maioria das crianças infectadas nos meses de 2021 se contaminaram dentro das suas casas, e do ponto de vista da garantia do ensino escolar e os impactos negativos no desenvolvimento mental e físico das crianças, o fechamento das escolas deve ser evitado.

No caso dos alunos do ensino médio, continua a haver muitas infecções fora de casa, portanto, dependendo da situação de disseminação da infecção na região é necessário analisar com flexibilidade, levando-se em conta as etapas de desenvolvimento dos alunos, a possibilidade de restringir parte das atividades que são realizadas sem máscaras e que oferecem um alto risco de infecção. Mesmo ao considerar o fechamento temporário das escolas em concordância com as restrições

impostas a todas as atividades socioeconômicas da região, procurem dar continuidade às atividades escolares, mediante uma análise proativa da possibilidade de aprendizagem híbrida que combina o escalonamento das aulas/ comparecimento à escola em horários diferentes e a aprendizagem online.

Por outro lado, independentemente de quão adequadas sejam as medidas tomadas, o risco de infecção não pode ser eliminado, sendo necessário tomar medidas rápidas e apropriadas quando for confirmada a infecção de uma pessoa no ambiente escolar. Para este fim, é importante estabelecer um sistema de gestão de saúde na escola, em cooperação com o Conselho de Educação e a Secretaria encarregada pela vigilância sanitária, bem como com os especialistas, como por exemplo, os médicos e farmacêuticos da escola, etc.

Quando for confirmado algum caso de infecção no ambiente escolar, é necessário tomar as precauções necessárias para que a pessoa infectada ou aluno que teve contato próximo com a pessoa infectada não se torne alvo da discriminação, preconceito, bullying (maltrato) e calúnia.

■ Código de conduta para cada região

Código de Conduta Escolar baseado no “Novo Estilo de Vida”

| Nível de Infecção Local | Distanciamento Físico | Atividades Escolares com Alto Risco de Transmissão | Atividades de Clubes (Atividades Voluntárias) |
|-------------------------|--|---|---|
| 3 | Manter uma distância de 2 metros (no mínimo 1 metro) | Não realizar | Limitadas às atividades de curta duração e de baixo risco de transmissão, realizadas individualmente ou em pequenos grupos |
| 2 | Estabelecer a distância máxima dentro da classe, tendo como referência 1 metro | <p>Fase sob controle</p> <p>Realizar gradualmente as atividades a partir daquelas</p> <p>↑ Fase em promoção</p> <p>Interromper as atividades com alto risco de contágio</p> | Realizar gradualmente as atividades com baixo risco de transmissão sob supervisão completa das atividades pelos professores |
| 1 | Estabelecer a distância máxima dentro da classe, tendo como referência 1 metro | Realizar com medidas adequadas para prevenção de transmissão | Realizar com medidas reforçadas de prevenção de transmissão |

- * O gestor da escola deve decidir qual dos níveis de 1 a 3 é aplicável à escola, em consulta com a Secretaria encarregada pela vigilância sanitária do governo local, considerando a propagação na região e o Sistema de Prestação de Serviços Médicos e outros fatores. Além disso, o mesmo critério deve ser aplicado às regiões onde foram implementadas as medidas preemergenciais, de acordo com o Artigo 31, parágrafo 4 inciso 1 da Lei de Medidas Especiais. Para realizar as atividades educacionais, o gestor da escola deve considerar se a escola se encontra numa região de nível 2 ou nível 3.

<Exemplo de tomada de decisão numa escola pública (exceto as universidades)>

(1) O Conselho de Educação coleta as informações sobre as infecções na região em cooperação com a Secretaria encarregada pela vigilância sanitária do governo local, utilizando o “Sistema de Informação sobre Ausência nas Aulas /Doenças Infecciosas” (operado por Japan Society of School Health), etc.



(2) Consultar a Secretaria encarregada pela vigilância sanitária do governo local sobre o nível de infecção local aplicável à escola, considerando a situação (1) e o Sistema de Prestação de Serviços Médicos.



(3) O Conselho de Educação consulta o chefe do executivo (governador ou prefeito) sobre o nível de infecção local aplicável à escola.



(4) Considerando os itens acima, o gestor da escola decide o nível de infecção local.

Capítulo 2 - Medidas Básicas de Prevenção de Transmissão do Novo Coronavírus nas Escolas

■ Orientações para os alunos

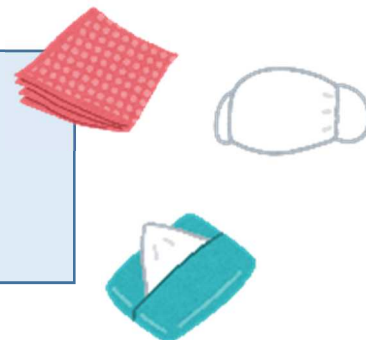
Na vida escolar, as ações dos alunos nos recreios, no trajeto da escola e em outros lugares fora do alcance da supervisão dos professores, apresentam um grande risco de infecção. Portanto, em primeiro lugar, é essencial que os próprios alunos e estudantes compreendam corretamente sobre a doença (Covid-19), devendo ser orientados para que possam julgar por si mesmos os riscos de contágio e consigam agir de maneira a evitá-los.

Por outro lado, os bebês e crianças pequenas que ainda não podem tomar as medidas de higiene por si mesmos devem receber ajuda e cuidados de pessoas adultas.

Em geral, os alunos devem incluir os seguintes artigos em seus pertences pessoais para evitar o contágio.

[Artigos individuais necessários]

- Lenços de papeis descartáveis, lenço de tecido limpo
- Máscara
- Papel/saco plástico ou pano para colocar a máscara



■ Implementação de medidas básicas de controle de contágio

Evitar esforços na prevenção contra a infecção, considerando os três pontos a seguir:

- Eliminação da fonte de infecção
- Eliminação da rota de transmissão
- Aumento da resistência

(1) Eliminação da fonte de infecção

Quem apresentar febre ou outros sintomas de gripe, incluindo alunos, professores e colaboradores no ambiente escolar, deverá permanecer em casa (nas áreas de nível 3 e 2, quando algum familiar apresentar sintomas semelhantes aos de gripe, o aluno deve permanecer em casa).

(2) Eliminação da rota de transmissão

A infecção pelo novo coronavírus geralmente ocorre por **gotículas** ou por **contato** com superfícies contaminadas. Em ambientes fechados onde muitas pessoas conversam umas próximas às outras, existe o risco de transmissão, mesmo não apresentando tosse, espirros ou outros sintomas. Portanto, para eliminar a rota de transmissão, são importantes: 1) Lavagem das mãos; 2) Etiqueta da tosse; 3) Limpeza e desinfecção.

1) Lavagem das mãos

6 (seis) momentos de lavar as mãos



2) Etiqueta da tosse



3) Limpeza e desinfecção

Onde limpar e desinfetar diariamente

- Uma vez por dia, limpar as superfícies que são muito tocadas (maçanetas, corrimãos, tomadas, etc.) com um pano limpo umedecido com água e em seguida, desinfetar com um pano ou papel embebido em desinfetante. No entanto, se houver uma lavagem adequada das mãos das crianças e de outras pessoas presentes, as operações acima podem ser abreviadas.
- Para os objetos de uso compartilhado, como os utensílios de limpeza e faxina, ao invés de desinfetar estes objetos a cada uso, orientar os alunos para que lavem as mãos antes e depois de usá-los.

(Referência) Imagens de alunos limpando as carteiras no final da aula



○Desinfecção quando surge uma pessoa infectada

- Caso seja confirmada a infecção de um aluno, professor ou colaborador no ambiente escolar, delimitar a área de atividade da pessoa infectada e desinfetar todos os objetos suspeitos de contaminação (superfícies e objetos tocados pela pessoa infectada) com etanol ou desinfetante de hipoclorito de sódio a 0,05%.

- O tempo de sobrevivência do vírus nas superfícies dos objetos depende do tipo do objeto, porém é dito que os vírus podem persistir nas superfícies de 24 a 72 horas, portanto em locais onde não possam ser desinfetados, proibir a entrada e tomar outras medidas adequadas, considerando o tempo de sobrevivência do vírus.

(3) Aumento da resistência imunológica

Orientar os alunos a manter um “sono suficiente”, “exercícios moderados” e uma “alimentação equilibrada” para aumentarem a sua resistência imunológica como um todo.



■ Medidas contra riscos de transmissão comunitária

De acordo com os relatos, dizem que o risco de surgir surtos da Covid-19 aumenta com a sobreposição de três condições:

- **Espaços fechados com pouca ventilação;**
- **Lugares aglomerados onde se reúnem muitas pessoas;**
- **Conversas e contatos próximos com outras pessoas.**

Portanto, é imprescindível evitar a sobreposição simultânea destas três condições, mas, mesmo que elas não se sobreponham, na medida do possível, é desejável que cada uma destas condições seja evitada a fim de reduzir os riscos de contágio.

(1) Evitar “lugares fechados” (assegurar uma boa ventilação)

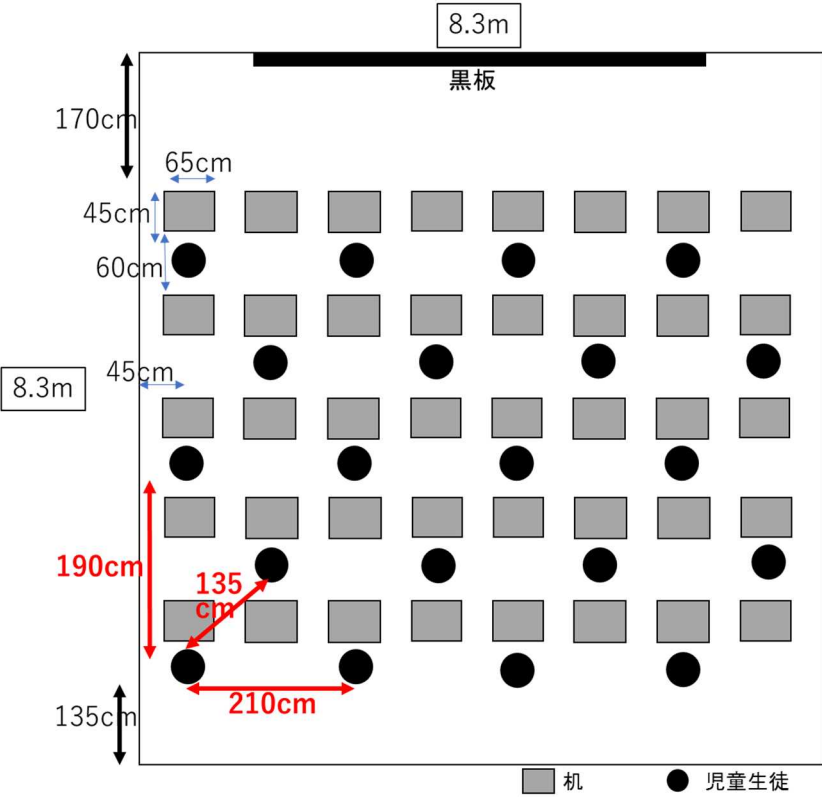
A ventilação deve, na medida do possível, ser permanente, mas quando isso não for possível, com frequência, abrir duas janelas em lados opostos para permitir a renovação de ar (ao menos uma vez a cada 30 minutos, abrir completamente as janelas por alguns minutos). Durante as aulas, não é obrigatório manter as janelas completamente abertas, no entanto, deve procurar manter uma ventilação adequada nas salas de aula. Mas como isso depende do clima, da distribuição das carteiras dos alunos e de outros fatores, consulte o farmacêutico da escola sobre os métodos adequados de ventilação.

(2) Evitar os lugares aglomerados (garantir um distanciamento físico adequado)

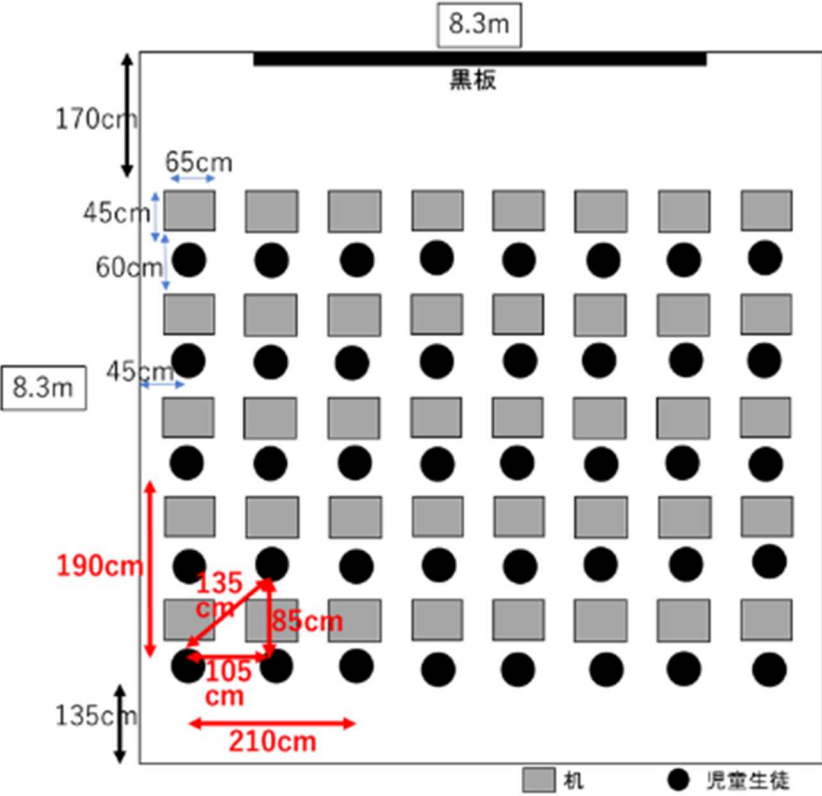
No “novo estilo de vida”, recomenda-se manter uma distância de 2 metros (no mínimo, 1 metro) entre as pessoas. Mesmo em áreas onde a infecção tenha, uma vez, diminuído, as escolas continuam propensas a gerar as “3 condições de risco”, sendo necessário, manter o distanciamento físico.

Em áreas com um grande número de novas confirmações de pessoas infectadas, cujas rotas de transmissão sejam desconhecidas, é imprescindível evitar as “3 condições de risco”, devendo, portanto, priorizar a garantia de distanciamento físico e introduzir as medidas de prevenção, como o escalonamento dos horários de início e de fim do dia escolar, etc.

(Referência) Região em nível 3 (Exemplo de uma classe com 20 alunos)



(Referência) Região em nível 1 ou 2 (Exemplo de uma classe com 40 alunos)



(3) Em situações de “contato próximo” com outras pessoas (usar máscara)

(1) Sobre o uso de máscara

Nas atividades escolares, **quando não puder garantir um distanciamento físico adequado**, é recomendável que **os alunos e professores usem máscaras**.

No entanto, quanto ao uso das máscaras, é possível adotar medidas de forma flexível, levando-se em consideração os aspectos envolvidos nas atividades escolares e o estado dos alunos, conforme indicado abaixo:

1) Quando há um distanciamento físico adequado, não é necessário o uso de máscara.

2) Retirar a máscara nos dias em que a temperatura, umidade e/ou índice de calor (WBGT)¹ estiverem altos, pois existe o risco de hipertermia e outros danos à saúde.

* É importante ter flexibilidade com respeito à retirada da máscara, considerando o tipo das atividades e a situação dos alunos.

* **Orientar os alunos para que eles possam julgar por si mesmos sobre quando retirar a máscara ou pendurá-la temporariamente numa só orelha para respirar quando sintam falta de ar devido ao calor; etc.**

* **No caso de bebês e crianças pequenas, os professores e/ou pais devem prestar atenção se estão com dificuldade de respirar ou se estão com outros desconfortos devido à máscara.**

3) Não é necessário usar máscara nas aulas de educação física. No entanto, quando não puder manter um distanciamento físico adequado, e se não houver riscos de hipertermia nem de falta de ar, deverá usar a máscara.

(Referência) Sobre o uso de protetores faciais (face shield) e protetores de boca (mouth shield)

Dizem que o efeito de prevenção contra infecção por meio de protetores faciais e protetores de boca é mais fraco que o das máscaras, e sua vedação é insuficiente, portanto, se passa o tempo na escola somente com estes protetores,

¹ Índice de calor (WBGT) é o índice de bulbo úmido e temperatura de globo, é um índice que mostra a severidade do calor, incorporando três fatores: a temperatura, umidade e o calor radiante, e correlaciona com a ocorrência de hipertermia.

deve se assegurar um distanciamento físico adequado.

(2) Sobre o manuseio de máscaras

No momento de retirar as máscaras, fazer o possível para não tocar na superfície da máscara, segurando o elástico ou o barbante para evitar tocar no vírus com as mãos e dedos. Dobrá-la com a parte interna para dentro e colocá-la sobre um plástico ou pano limpo para mantê-la higiênica.

Para descartar a máscara, colocá-la dentro de um saco plástico sem tocar sua superfície, amarrar a boca do saco e fechá-lo para em seguida, descartá-lo.

■ Administração da suspensão de comparecimento

Indicamos abaixo como administrar situações de suspensão de comparecimento. No caso dos alunos que regressaram do exterior ou reentraram no Japão e que receberam solicitação para aguardar em casa por um determinado tempo como parte das medidas de controle de fronteira, se não apresentarem nenhum problema de saúde depois de cumprido o prazo solicitado, poderão retornar à escola.

| | |
|--|---|
| Quando será proibido vir à escola | <ul style="list-style-type: none">• Aqueles com confirmação positiva de infecção• Aqueles que tiveram contato próximo com os infectados• Aqueles que apresentam febre e/ou outros sintomas de gripe• Aqueles que convivem com familiar que apresenta febre e/ou outros sintomas de gripe (em área de nível 2 ou 3) |
| Quando será aceitável que não venha à escola | <p>Aqueles em cuidados médicos ou com doenças subjacentes com recomendação de não ir à escola</p> <ul style="list-style-type: none">• Aqueles, cujo diretor da escola julgar razoáveis os motivos apresentados pelos pais/responsáveis em termos de preocupação com a infecção da criança, e expressarem desejo de mantê-la em casa devido ao rápido aumento de pacientes infectados por rota de transmissão desconhecida na região onde vivem, ou por conviver com pessoas idosas, com doenças de base ou outras condições e não encontra meios para contornar a situação. |

Compreensão da saúde psicológica e física dos alunos, professores e servidores e fornecimento de cuidados psicológicos

De acordo com o 4º. relatório da pesquisa intitulada “Questionário Corona versus Crianças” realizada entre novembro a dezembro de 2020 pelo Centro Nacional para o Desenvolvimento Infantil e Ciências Médicas, 15% a 30% dos alunos a partir da 4ª. série primária apresentaram sintomas de depressão moderados ou mais graves, demonstrando que o cuidado psicológico aos alunos continua sendo uma questão importante.

É preciso compreender com precisão a situação dos alunos por meio de uma minuciosa observação da saúde feita pelos professores e professores-enfermeiros, e assim, fornecer-lhes aconselhamento de saúde em colaboração com os médicos escolares, dando-lhes apoio psicológico e de bem-estar através de profissionais como psicólogos e assistentes sociais num trabalho de atendimento em equipe envolvendo o corpo docente e os funcionários relacionados sob a liderança da administração escolar. Além disso, é preciso fazer a divulgação do balcão de atendimento a consultas sobre eventuais casos de estresse, bullying, preconceitos e outros problemas relacionados ao

COVID-19.

Ao mesmo tempo, pedimos ao quadro superior e ao gestor de cada escola prestarem a devida atenção à saúde mental dos seus professores e servidores, conscientes da carga mental a que estão submetidos por estarem na linha de frente de enfrentamento das doenças infecciosas e de prestação de apoio psicológico aos alunos.

■ **Medidas preventivas contra infecção para professores e colaboradores**

As medidas preventivas contra infecção dos alunos valem também para professores e colaboradores.

■ **Medidas preventivas contra infecção em alojamentos e dormitórios**

Os alojamentos e dormitórios são lugares onde os alunos vivem em grupos, e como há muitas instalações compartilhadas e um grande número de adultos que convivem nas mesmas instalações, é necessário ter precaução suficiente em uma base diária, consultando o médico da escola e organizações pertinentes sobre o controle da saúde e medidas preventivas a tomar, e como agir em caso de infecção. Os principais pontos a considerar são os seguintes:

(Em situações normais)

- Se um dormitório é compartilhado por duas ou mais pessoas, o uso de máscara dentro do quarto for impraticável, portanto será necessário não conversar em voz alta a curta distância e respeitar estritamente a etiqueta da tosse.
- Não compartilhar toalhas de mão para uso em banheiros.
- Procurar desinfetar regularmente (várias vezes ao dia) as instalações compartilhadas (aquecedores de água, máquinas automáticas de venda de refrigerantes, etc.), as sapateiras, as maçanetas das portas, as superfícies de contato do vaso sanitário, as alavancas de descarga do banheiro, as torneiras e outras partes utilizadas com frequência por muita gente.

(Pessoa com febre e/ou outras manifestações clínicas)

- Isolar a pessoa num quarto individual (de preferência, sozinha)
- Mesmo que os sintomas desapareçam rapidamente, mantê-la sozinha no quarto por 2 dias após o desaparecimento dos principais sintomas e não permitir que participe das atividades em grupo, como as atividades do clube da escola e da vida coletiva no alojamento.

- Se mais de uma pessoa (por exemplo, três ou mais) apresentam manifestações clínicas suspeitas, consultar o médico da escola ou uma instituição médica.

(Em caso de suspeita da Covid-19)

- Isolar a pessoa com suspeita de contaminação num quarto individual.
 - Na falta de disponibilidade de um quarto individual, fazer com que a pessoa suspeita de infecção positiva e os companheiros do quarto usem máscara permanentemente e manter o quarto bem ventilado. Manter uma distância de 1 metro ou mais, e tanto quanto seja possível, evitar que tenha contatos próximos.
 - Evitar o uso de lugares compartilhados, mas quando for inevitável utilizá-los, evitar o horário de uso de outros usuários, e desinfetar os objetos antes e depois da pessoa suspeita de infecção positiva utilizá-los.

Procedimentos para casos confirmados de infecção de aluno, professor e/ou colaborador

***Este fluxograma foi elaborado como uma diretriz de resposta para as escolas estipulada no Artigo 1 da Lei de Educação Escolar, e pedimos também às escolas estrangeiras e escolas internacionais, onde a Lei de Saúde e Segurança Escolar não se aplica necessariamente, aproveitarem este fluxograma como uma diretriz de resposta numa situação de confirmação da ocorrência de uma infecção.**

[A escola deverá comunicar o gestor e tomar a medida de suspensão de comparecimento da pessoa infectada, etc.]

Assim que a escola receba a comunicação de infecção de um aluno, professor e/ou colaborador:

- Avisar o gestor da escola e transmitir as atividades da pessoa infectada dentro da escola
- Se o infectado for um aluno, tomar medidas de suspensão de comparecimento, de acordo com artigo No. 19 da Lei de Saúde e Segurança Escolar.
- Se for um professor e/ou colaborador, deverá ficar afastado da escola

[O gestor da escola deverá consultar o posto de saúde]

O gestor da escola deverá consultar o posto de saúde, além de analisar a necessidade de fechar temporariamente a escola.

[Pesquisa por parte do posto de saúde]

O posto de saúde deverá coletar as informações necessárias (pesquisa) para identificar contatos próximos com pessoas infectadas, etc.

A escola e o gestor devem colaborar com a pesquisa.

[O gestor deverá determinar a necessidade ou não de fechar temporariamente a escola]

O gestor da escola analisará se é necessário fechar temporariamente a escola (total ou parcialmente) com base na opinião do posto de saúde e do médicos da escola.

Outros casos indicados à direita

- Continuar com as atividades escolares
- *Revisar as atividades com alto risco de transmissão de acordo com a situação
- Se houver contatos próximos com pessoas infectadas: no caso de alunos, tomar as medidas de suspensão de comparecimento, e no caso de professores, suspendê-los das atividades escolares..

Alta probabilidade de surto no ambiente escolar, etc.

Fechamento temporário (total ou parcial) da escola de acordo com o artigo 20 da Lei de Saúde e Segurança Escolar

Exemplos de alta probabilidade de surtos na escola:

- Novos casos de pessoas infectadas fora do ambiente doméstico
- Contatos próximos com pessoas infectadas sem usar máscara e/ou com um número indeterminado de pessoas



**Hướng dẫn quản lý vệ sinh liên quan đến bệnh truyền nhiễm
virus corona chủng mới trong trường học
~ “Lối sống mới trong trường học” ~
(29/12/2021 Phiên bản thứ 6)**

[Sử dụng cho các trường dành cho người nước ngoài]

Về các biện pháp ngăn ngừa lây nhiễm virus corona chủng mới trong trường học

■ Quan điểm về việc ngăn ngừa lây nhiễm virus corona chủng mới trong trường học

Ngoài việc xây dựng “lối sống mới” để duy trì các biện pháp ngăn ngừa lây nhiễm cơ bản như tránh “3 chữ Mạt”, “đeo khẩu trang trong trường học không giữ đủ khoảng cách được với người khác” và “vệ sinh tay như rửa tay v.v...”, tùy theo tình hình lây nhiễm tại địa phương, các trường cần phải cố gắng điều chỉnh nội dung học tập và nội dung hoạt động sao cho có thể duy trì được các hoạt động giáo dục như giảng dạy, hoạt động câu lạc bộ hay các sự kiện v.v... đảm bảo được việc học tập lành mạnh cho trẻ.

Ngoài ra, theo Viện nghiên cứu các bệnh truyền nhiễm quốc gia, các biện pháp đối phó với các biến thể mới đang được khuyến khích thực hiện là các biện pháp phòng chống bệnh truyền nhiễm cơ bản tương tự như với các chủng thông thường như tránh “3 chữ mạt” (đặc biệt là 5 tình huống có nguy cơ cao), đeo khẩu trang và rửa tay v.v... Để có thể giảm được tối đa số bệnh nhân, cần phải tiến hành thực hiện các biện pháp phòng chống bệnh truyền nhiễm với tinh thần cảnh giác cao hơn so với thông thường

Kể cả trong trường hợp bắt buộc phải nâng cao mức độ cảnh báo như khi có số người lây nhiễm biến thể mới hay số người lây nhiễm không rõ nguồn lây tại địa phương tăng v.v..., trong trường hợp phải tạm dừng toàn bộ các hoạt động kinh tế xã hội của khu vực thì việc tạm ngừng hoạt động toàn khu vực là biện pháp cần thiết, tuy nhiên, dựa trên tình hình lây nhiễm trong từng tháng của năm 2021, việc lây nhiễm trong gia đình chiếm phần lớn, do đó, từ quan điểm đảm bảo việc học tập hay các ảnh hưởng tới tinh thần và thể chất, đặc biệt đối với các trường tiểu học hay trung học cơ sở cần trách việc chỉ tạm đóng cửa riêng trường học.

Đối với các học sinh phổ thông trung học, việc lây nhiễm từ cả trong và ngoài gia đình vẫn rất nhiều, do đó, tùy theo tình hình bùng phát lây nhiễm tại địa phương, cần phải xem xét ứng phó một cách linh hoạt sao cho phù hợp với từng giai đoạn phát triển của học sinh như tạm thời hạn chế các hoạt động thực hiện khi không đeo khẩu trang có nguy cơ lây nhiễm cao v.v... Ngoài ra, kể cả trong trường hợp xem xét việc tạm đóng cửa trường học khi có các hạn chế đối với toàn bộ các hoạt động kinh tế xã hội của địa phương thì cần phải phải xem xét một cách tích cực về khả năng học lệch giờ hay học chia ca kết hợp với học trực tuyến theo mô hình Hybrid để có thể duy trì được việc học tập

Ngoài ra, trên thực tế, kể cả khi đã tiến hành bất kể biện pháp ngăn ngừa lây nhiễm nào đi chăng nữa thì cũng không thể làm cho nguy cơ lây nhiễm bằng không được, do vậy điều quan trọng là cần phải liên kết với Ủy ban giáo dục và cơ quan chủ quản chính về vệ sinh của địa

phương hay liên kết với các chuyên gia như bác sĩ trường học, dược sĩ trường học để xây dựng lên một mạng lưới quản lý sức khỏe trong trường học sao cho có thể xử lý được một cách nhanh chóng và chính xác khi xác nhận được có bệnh nhân bị lây nhiễm.

Trường học xác nhận được có người của trường học bị lây nhiễm, cần phải lưu ý, quan tâm một cách đầy đủ để cho các học sinh là người bị lây nhiễm hay người có tiếp xúc gần không trở thành đối tượng bị phân biệt đối xử, bị thành kiến, bắt nạt, phi báng lăng mạ v.v...

■ Tiêu chuẩn hành động cho từng khu vực

Tiêu chuẩn hành động của trường học dựa trên “Lối sống mới”

| Mức độ lây nhiễm của địa phương | Đảm bảo khoảng cách vật lý | Hoạt động giáo dục có nguy cơ lây nhiễm cao | Hoạt động câu lạc bộ (Hoạt động tham gia tự nguyện) |
|---------------------------------|--|---|---|
| Mức độ 3 | Cố gắng giữ khoảng cách khoảng 2m (Tối thiểu là 1m) | Không tổ chức | Chỉ tổ chức các hoạt động ít có nguy cơ lây nhiễm như của cá nhân hay nhóm ít người trong thời gian ngắn |
| Mức độ 2 | Giãn cách tổ đ trong từng lớp. Lấy mục tiêu là 1m | <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg); font-size: small; margin-right: 5px;">Địch đã được khống chế</div> <div style="text-align: center;"> <p>Tổ chức dần từ các hoạt động có nguy cơ lây nhiễm thấp</p> <p>↑ Dừng các hoạt động có nguy cơ lây nhiễm cao</p> </div> </div> | Tổ chức dần bắt đầu từ các hoạt động có nguy cơ lây nhiễm thấp và các giáo viên cần phải kiểm tra triệ để tình hình hoạt động |
| Mức độ 1 | Giãn cách tối đa trong từng lớp Khoảng 1m | Tổ chức sau khi đã tiến hành các biện pháp ngăn ngừa lây nhiễm hợp lý | Tổ chức sau khi đã thực hiện ở các biện pháp ngăn ngừa lây nhiễm |

Dựa trên tình hình lây nhiễm của địa phương và tình hình của hệ thống y tế địa phương, người thành lập trường học (người chịu trách nhiệm quản lý cấp cao nhất) cần phải trao đổi với Cơ quan quản lý vệ sinh của chính quyền địa phương xem địa phương thuộc mức độ nào từ 1~3. Ngoài ra, quan điểm này cũng được áp dụng tương tự dành cho các khu vực cần phải thực hiện các biện pháp trọng điểm chống lây lan theo Mục 1 Điều 31- 4 của Luật các biện pháp đặc biệt. Người thành lập trường học cần phải đánh giá xem khu vực thuộc mức độ 2 hay mức độ 3 và tiến hành các hoạt động giáo dục phù hợp với mức độ đó.

<Ví dụ về quy trình xác định trong trường hợp là trường công lập (trừ đại học)>

- ① Ủy ban giáo dục sẽ liên kết với Cơ quan quản lý vệ sinh của chính quyền địa phương, sử dụng “Hệ thống thông tin bệnh truyền nhiễm, người nghỉ học v.v... của trường học (Do Tổ chức pháp nhân công ích Hội sức khỏe trường học Nhật Bản vận hành)” để thu thập thông tin về tình hình lây nhiễm của địa phương.



- ② Dựa trên ① và tình hình của hệ thống y tế v.v..., trao đổi về phân loại khu vực với cơ quan chủ quản về vệ sinh của chính quyền địa phương.



- ③ Ủy ban giáo dục trao đổi với người đứng đầu của địa phương (tỉnh trưởng hay người đứng đầu của thành phố quận thị trấn làng) về phân loại khu vực.



- ④ Dựa trên các điều trên, quyết định phân loại khu vực.

Chương 2 Về các biện pháp ngăn ngừa bệnh truyền nhiễm virus corona chủng mới cơ bản trong trường học

■ Hướng dẫn cho học sinh v.v...

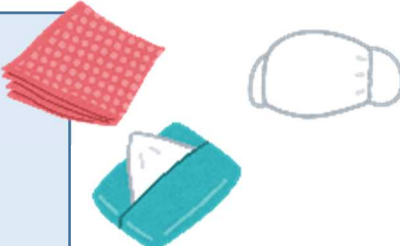
Trong sinh hoạt trường học, những hành động của học sinh tại những nơi mà giáo viên không quan sát được như là vào giờ giải lao hay trong khi đến và rời trường v.v... có nguy cơ lây nhiễm cao. Trước hết, cần phải hướng dẫn cho học sinh hiểu được đúng về bệnh truyền nhiễm này, giúp học sinh tự biết được nguy cơ lây nhiễm để có những hành động tránh các nguy cơ này.

Đối với những trẻ em còn nhỏ chưa tự thực hiện được các biện pháp vệ sinh thì người lớn sẽ tiến hành quan tâm, giúp đỡ.

Ngoài ra, các học sinh cần phải mang theo các vật dụng thường ngày dưới đây để ngăn ngừa lây nhiễm...

[Những đồ vật mỗi người cần mang theo]

- Khăn tay, giấy ăn sạch
- Khẩu trang
- Túi giấy bóng hay vải sạch dùng để đựng khẩu trang



■ Thực hiện các biện pháp ngăn ngừa bệnh truyền nhiễm cơ bản

Tiến hành các hoạt động dựa trên 3 điểm về ngăn ngừa bệnh truyền nhiễm.

- Tiêu diệt nguồn lây nhiễm
- Tiêu diệt đường lây truyền
- Tăng cường sức đề kháng

(1) Tiêu diệt nguồn lây nhiễm

Khi có các triệu chứng cảm lạnh như sốt v.v... thì kể cả học sinh lẫn giáo viên đều phải nghỉ dưỡng tại nhà (tại khu vực ở mức độ 3 và mức độ 2, kể cả trường hợp người nhà sống cùng có các triệu chứng cảm lạnh thì cũng không được đến trường).

(2) Tiêu diệt đường lây truyền

Bệnh truyền nhiễm virus corona chủng mới thường **lây truyền qua đường giọt bắn** và **lây truyền qua tiếp xúc trực tiếp**. Khi nói chuyện với nhiều người ở khoảng cách gần trong một không gian kín thì kể cả khi không có các triệu chứng như ho hay hắt xì hơi vẫn được cho là có nguy cơ làm lây lan mầm bệnh. Để có thể tiêu diệt được đường lây truyền thì việc rửa

tay, phép lịch sự khi ho, vệ sinh, khử trùng là điều rất quan trọng.

Rửa tay

6 thời điểm rửa tay

Khi bước vào lớp từ bên ngoài



Khi ho, hắt xì hơi
hay xì mũi



Trước và sau
khi ăn (ăn trưa)



Sau khi dọn vệ sinh



Sau khi đi vệ sinh



Sau khi sờ vào các vật
dùng chung



正しい手の洗い方

手洗いの
前に

- 爪は短く切っておきましょう
- 時計や指輪は外しておきましょう

- 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。
- 手の甲をのぼすようにこすります。
- 指先・爪の間を念入りこすります。
- 指の間を洗います。
- 親指と手のひらをねじり洗います。
- 手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

首相官邸
厚生労働省
厚労省

Phép lịch sự khi ho



Vệ sinh, khử trùng

○ Các điểm cần lưu ý khi làm vệ sinh, trừ trùng hàng ngày

- Với những chỗ mà nhiều người thường chạm vào (tay nắm cửa, tay vịn, công tắc v.v...), sau khi lau bằng khăn ướt, lau lại bằng khăn vải hay khăn giấy có tẩm dung dịch khử trùng mỗi ngày 1 lần. Tuy nhiên, trong trường hợp học sinh thực hiện đúng được việc rửa tay thì có thể bỏ qua thao tác này.
- Với những đồ dùng chung như đồ dùng, dụng cụ hay dụng cụ làm vệ sinh v.v... không phải khử trùng sau mỗi lần sử dụng mà hướng dẫn học sinh rửa tay trước và sau khi dùng.

(Tham khảo) Hình ảnh các em nhỏ tự lau bàn của mình trước khi về



○ Về việc khử trùng khi có người bị lây nhiễm

- Khi phát hiện ra có học sinh hay giáo viên bị lây nhiễm, xác định phạm vi đã hoạt động của người bị lây nhiễm đó, khử trùng các đồ vật được cho là đã bị nhiễm khuẩn (những đồ vật mà người bị lây nhiễm chạm vào nhiều lần) bằng cồn ethanol khử trùng hay dung dịch khử trùng sodium hypochlorite 0,05%...
- Mặc dù có thay đổi tùy thuộc vào từng loại đồ vật bị dính vào, tuy nhiên thời gian sống sót của virus dính trên bề mặt đồ vật được cho là khoảng từ 24 ~ 72 tiếng, lưu ý tới thời

gian sống sót này để áp dụng các biện pháp cấm ra vào những nơi không khử trùng được.

(3) Tăng cường sức đề kháng cho toàn bộ cơ thể

Để nâng cao sức đề kháng cho toàn bộ cơ thể, hướng dẫn học sinh lưu ý “ngủ đủ”, “vận động hợp lý” và “ăn uống đủ chất”.



■ Đối phó với nguy cơ lây nhiễm tập thể

Đối với bệnh truyền nhiễm virus corona chủng mới,

- Không gian kín thông gió kém
- Địa điểm tập trung đông nhiều người
- Tình huống tiếp xúc gần có giao tiếp hay nói chuyện ở khoảng cách gần

ở những nơi có hội tụ 3 điều kiện trên (3 chữ Mật (mippei (Mật bé - không gian kín), misshu (Mật trung - tập trung đông người), missettsu (Mật tiếp - tiếp xúc gần)) được cho là sẽ làm tăng nguy cơ lây nhiễm tập thể. Việc tránh các tình huống có hội tụ cùng một lúc 3 điều kiện trên là điều đương nhiên, tuy nhiên kể cả trong trường hợp không hội tụ cả 3 chữ Mật này thì cũng cần tránh hết mức có thể từng yếu tố Mật để giảm nguy cơ rủi ro.

(1) Tránh “Mippei” (Mật bé-không gian kín) (tích cực thông gió)

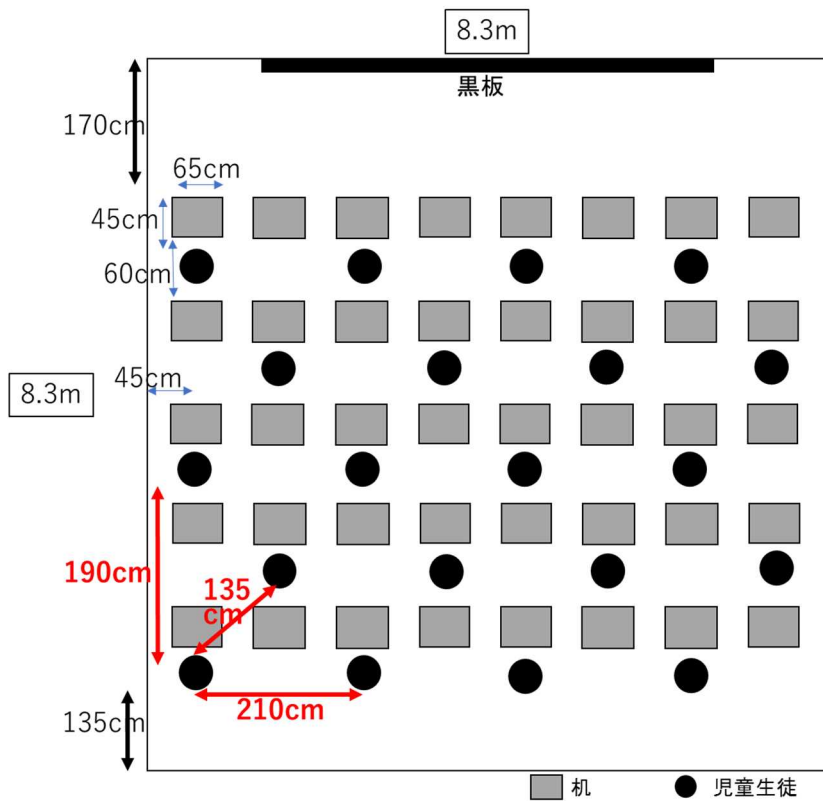
Tiến hành thông gió thường xuyên nếu điều kiện thời tiết cho phép, trường hợp không thực hiện được thường xuyên thì thực hiện nhiều lần (cứ 30 phút thông gió ít nhất 1 lần, trong khoảng vài phút, mở rộng toàn bộ cửa sổ), cố gắng mở cửa sổ ở 2 hướng cùng một lúc. Trong giờ học, không nhất thiết phải mở rộng cửa sổ nhưng tùy vào khí hậu, thời tiết, cách bố trí lớp học, mức độ thoáng gió có thể khác nhau, do vậy, nên trao đổi về phương pháp thông gió với được sĩ trường học v.v...nếu thấy cần thiết.

(2) Tránh “Misshu” (Mật trung-tập trung đông người) (Đảm bảo khoảng cách vật lý)

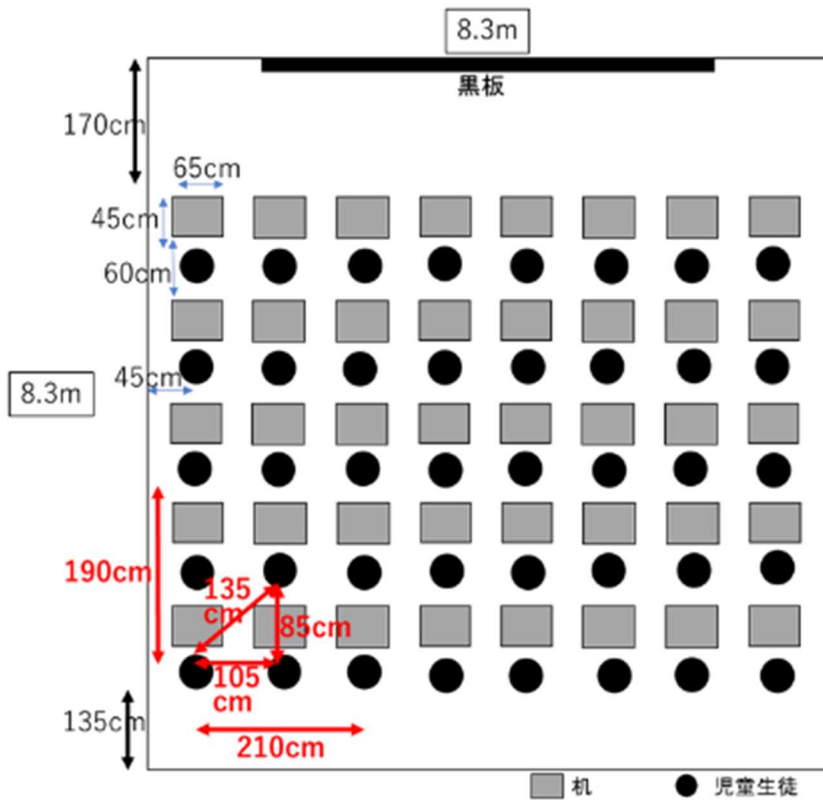
Trong “Lối sống mới” có khuyến khích nên cố gắng giữ khoảng cách 2 mét (ít nhất là 1 mét) với người khác. Kể cả tại những khu vực dịch đã tạm lắng xuống thì trường học vẫn là nơi dễ trở thành nơi hội tụ “3 chữ Mật”, do vậy, điều quan trọng là phải đảm bảo khoảng cách về mặt vật lý hết sức trong khả năng có thể.

Đối với những khu vực có số người lây nhiễm mới, số người lây nhiễm không rõ nguồn lây nhiều thì tính cấp thiết của việc tránh “3 chữ Mật” một cách triệt để càng cao, do vậy, đối với những khu vực ở mức độ 3 cần phải áp dụng hình thức học lệch giờ v.v... để ưu tiên đảm bảo khoảng cách vật lý.

(Tham khảo) Khu vực ở cấp độ 3 (trường hợp 1 lớp có 20 học sinh)



(Tham khảo) Khu vực ở cấp độ 1, 2 (trường hợp 1 lớp có 40 học sinh)



(3) Đối phó với tình huống “Missetsu” (Mật tiếp - tiếp xúc gần) (Đeo khẩu trang)

Về việc đeo khẩu trang

Trong các hoạt động giáo dục trường học, học sinh cũng như các giáo viên **nên đeo khẩu trang khi không đảm bảo được đủ khoảng cách vật lý.**

Tuy nhiên, về việc đeo khẩu trang, tùy theo hình thức của hoạt động giáo dục trường học hay tình trạng của học sinh v.v... cần phải xử lý một cách linh hoạt như sau:

1) Nếu đảm bảo được đủ khoảng cách vật lý thì không cần phải đeo khẩu trang.

2) Trong những ngày có nhiệt độ, độ ẩm hay chỉ số nhiệt (WBGT) ¹ cao, do có nguy cơ có thể xảy ra các thiệt hại về sức khỏe như sốc nhiệt v.v... vì vậy hãy tháo khẩu trang ra.

Việc cho tháo khẩu trang cần phải được xử lý tại chỗ một cách linh hoạt tùy theo hình thức hoạt động cũng như tình trạng của học sinh v.v...

Hướng dẫn để học sinh có thể tự phán đoán và xử lý được đúng như tháo khẩu trang hay tạm thời đeo một bên tai để thở khi bản thân học sinh đó thấy có cảm giác khó thở vì nóng quá v.v...

Đối với các em còn nhỏ thì giáo viên và người nhà cần phải lưu ý một cách thận trọng xem trẻ đã đeo khẩu trang đúng hay chưa, trẻ có bị khó thở khi đeo khẩu trang hay không.

3) Trong giờ học giáo dục thể chất không cần thiết phải đeo khẩu trang. Tuy nhiên, trong trường hợp không đảm bảo được đủ khoảng cách vật lý mà lại không có nguy cơ sẽ bị khó thở hay nguy cơ bị sốc nhiệt v.v... thì vẫn nên đeo khẩu trang.

(Tham khảo) Về việc sử dụng tấm chắn che mặt, tấm chắn che miệng

Về hiệu quả phòng chống lây nhiễm của tấm chắn che mặt và tấm chắn che miệng, mức độ kín được cho là chưa đủ và có hiệu quả thấp hơn so với khẩu trang, nếu chỉ dùng các tấm chắn này tại trường học thì cần phải đảm bảo lấy đủ khoảng cách vật lý.

Về việc sử dụng khẩu trang

Khi tháo khẩu trang, cầm vào dây chun hay dây đeo để tháo khẩu trang ra, cố gắng không chạm vào bề mặt của khẩu trang để không bị virus v.v... dính vào tay, gập vào bên trong và để lên tấm nylon hay miếng vải để giữ gìn vệ sinh. Kể cả khi rút khẩu trang, cố gắng không chạm vào bề mặt khẩu trang, cho khẩu trang vào trong túi giấy bóng, buộc kín miệng túi lại rồi mới rút.

¹ Chỉ số nhiệt (WBGT) là chỉ số chỉ mức độ nóng bức gồm 3 yếu tố nhiệt độ, độ ẩm và nhiệt độ bức xạ, chỉ số này tương quan với việc xảy ra sốc nhiệt.

■ Áp dụng tạm dừng đến trường v.v...

Việc tạm dừng đến trường được áp dụng như dưới đây. Đối với các học sinh về nước hay tái nhập cảnh từ nước ngoài, những người thuộc đối tượng yêu cầu phải cách ly tại nhà v.v... trong một khoảng thời gian nhất định theo quy định về các biện pháp kiểm soát biên giới của chính phủ, sau khi đã xác nhận được là đã qua thời gian cách ly này và không có vấn đề gì về sức khỏe thì các học sinh này có thể đến trường được.

| | |
|---|--|
| Trường hợp bị cấm đến trường | <ul style="list-style-type: none"> • Người được phát hiện là đã bị lây nhiễm • Người được xác định là người tiếp xúc gần với người bị lây nhiễm • Người tiếp xúc gần với người có các triệu chứng cảm lạnh như sốt v.v... • Người có người nhà sống cùng có các triệu chứng cảm lạnh như sốt v.v... (tại các khu vực mức độ 2 và 3) |
| Trường hợp được coi là không cần đến trường | <ul style="list-style-type: none"> • Trường hợp được cho là không nên đến trường đối với các trẻ cần được chăm sóc y tế hay những trẻ có bệnh nền. • Đối với những học sinh có nguyện vọng muốn được nghỉ do thấy lo lắng sẽ bị lây nhiễm, nếu khu vực sinh hoạt là khu vực có số người lây nhiễm không rõ nguồn lây đang tăng nhanh, hay trong trường hợp không còn cách nào khác như có hoàn cảnh là sống cùng nhà với người cao tuổi hay người có bệnh nền v.v... và được Hiệu trưởng quyết định đây là lý do hợp lý. |

■ Nắm bắt tình trạng thể chất và tinh thần của học sinh cũng như giáo viên, chăm sóc về mặt tinh thần v.v...

Báo cáo điều tra lần thứ 4 dựa trên “Phiếu điều tra về corona x trẻ em” được Trung tâm Quốc gia về sức khỏe và phát triển trẻ em thực hiện vào tháng 11 ~ tháng 12 năm 2020 đã chỉ ra rằng có tới 15% ~ 30% trẻ em từ lớp 4 trở lên có triệu chứng trầm cảm ở trên mức độ vừa, việc chăm sóc về tinh thần cho trẻ em vẫn tiếp tục là một bài toán quan trọng cần giải quyết.

Dựa trên các giám sát sức khỏe tỉ mỉ do các giáo viên chủ nhiệm hay nhân viên y tế học đường đảm nhiệm, cùng với việc nắm bắt được một cách chính xác tình hình của học sinh, liên kết với bác sĩ trường học để tiến hành tư vấn sức khỏe hay tiến hành hỗ trợ về mặt tâm lý, phúc lợi thông qua các tư vấn trường học hay nhân viên xã hội trường học v.v...dưới sự chỉ đạo của các lãnh đạo, các giáo viên liên quan cần phải tiến hành xử lý theo nhóm một cách có tổ chức. Ngoài ra, đối với những căng thẳng, bất an hay thành kiến v.v... liên quan đến bệnh truyền nhiễm virus corona chủng mới, cần tiến hành thông báo phổ cập một cách phù hợp về cửa sổ tư vấn.

Đồng thời, cần nhắc tới các gắng nặng về mặt tinh thần mà các giáo viên làm việc tại tuyến đầu về các biện pháp phòng chống lây nhiễm hay chăm sóc sức về tinh thần tại trường học, người quản lý hay người thành lập trường học cũng cần phải xem xét đầy đủ tới sức khỏe tinh thần của các giáo viên.

■ Các biện pháp ngăn ngừa lây nhiễm dành cho giáo viên

Các biện pháp ngăn ngừa lây nhiễm dành cho giáo viên cũng được thực hiện tương tự như dành cho học sinh.

■ Các biện pháp ngăn ngừa lây nhiễm tại nhà ở tập thể hay ký túc xá

Nhà ở tập thể hay ký túc xá là nơi học sinh sinh hoạt tập thể, có nhiều cơ sở hạ tầng dùng chung v.v... và là nơi có nhiều người cùng sinh hoạt hàng ngày, do đó, cần phải kết hợp với bác sĩ trường học hay các tổ chức liên quan để xem xét và chuẩn bị một cách kỹ lưỡng về các biện pháp quản lý sức khỏe và các biện pháp ngăn ngừa lây nhiễm từ những lúc bình thường tới cách xử lý khi phát hiện ra có người bị lây nhiễm. Những điểm cần lưu ý chính như sau.

(Lúc bình thường)

- Trường hợp phòng dùng chung dành cho ít nhất 2 người, việc đeo khẩu trang thường xuyên trong phòng là điều không thực tế nên cần thực hiện một cách triệt để phép lịch sự khi ho và tránh nói chuyện to tiếng ở khoảng cách gần.
- Không dùng chung khăn lau tay trong nhà vệ sinh.
- Tiến hành khử trùng một cách định kỳ (mỗi ngày vài lần) những chỗ mà nhiều người hay chạm vào như các trang thiết bị dùng chung (máy lọc nước, máy bán hàng tự động v.v...), tủ giày, tay nắm cửa, nơi tiếp xúc trên mặt bồn cầu, cần gạt nước của bồn cầu, tay vịn vòi nước v.v...

(Trường hợp xuất hiện người bị sốt hay không được khỏe)

- Cách ly trong phòng (phòng riêng nếu được).
- Kể cả khi triệu chứng đã đỡ ngay nhưng vẫn cần phải cho ở trong phòng riêng và không được tham gia vào các hoạt động tập thể như hoạt động câu lạc bộ hay sinh hoạt tại khu nhà ở tập thể v.v... cho đến khi qua 2 ngày sau khi đã hết các triệu chứng chính.
- Trường hợp xuất hiện nhiều người bị ốm cùng một lúc (ví dụ như từ 3 người trở lên), cần phải trao đổi với bác sĩ trường học hay cơ sở y tế.

(Trường hợp xuất hiện người có nghi ngờ bị nhiễm virus corona chủng mới)

- Cách ly trong phòng riêng.
- Trường hợp không chuẩn bị được phòng riêng, yêu cầu người đó và những người ở cùng phòng đeo khẩu trang thường xuyên và tiến hành thông gió trong phòng. Giữ khoảng cách trên 1m và hạn chế tối đa việc nói chuyện hay tiếp xúc với nhau.
- Hạn chế hết mức việc sử dụng các khu vực công cộng, nếu sử dụng thì cần tránh khoảng thời gian mà những người ở cùng khác sử dụng, tiến hành khử trùng những đồ vật trước và sau khi người bị nghi ngờ sử dụng.

Quy trình thực hiện khi phát hiện có học sinh hay giáo viên bị lây nhiễm

Quy trình này được lập với mục đích làm phương châm xử lý tại trường học được quy định tại Điều 1 Luật Giáo dục trường học, tuy nhiên tại các trường quốc tế dành cho người nước ngoài mà Luật an toàn sức khỏe trường học không nhất thiết phải được áp dụng, khi phát hiện ra có người bị lây nhiễm cũng có thể sử dụng phương châm xử lý này.

[Trường tiến hành liên lạc cho người thành lập, tạm dừng đến trường đối với người bị lây nhiễm v.v...]
Sau khi nhận được thông báo rằng học sinh hay giáo viên đã bị lây nhiễm, trường học sẽ,

- Liên lạc với người thành lập trường, thông báo tình hình hoạt động tại trường của người bị lây nhiễm.
- Trường hợp người bị nhiễm là học sinh thì sẽ áp dụng biện pháp **Tạm dừng đến trường** theo Điều 19 của Luật an toàn sức khỏe trường học.

Nếu người bị nhiễm là giáo viên thì sẽ tạm cho nghỉ làm.

【Người thành lập trường trao đổi với Trạm y tế】
Người thành lập trường sẽ tiến hành trao đổi với Trạm y tế bao gồm cả việc có cần thiết phải tạm đóng cửa trường học hay không

【Điều tra của Trạm y tế】
Trạm y tế sẽ tiến hành thu thập các thông tin cần thiết (điều tra) để xác định những người tiếp xúc gần.
Trường học và người thành lập sẽ cùng hợp tác để thực hiện điều tra trên.

【Người thành lập quyết định xem có cần thiết phải tạm thời đóng cửa trường học hay không】
Dựa trên ý kiến của của Trạm y tế và bác sĩ trường học, người thành lập trường sẽ xem xét xem có cần thiết phải đóng cửa một phần hay toàn bộ trường học hay không.

Trường hợp không thuộc bên phải

- Duy trì các hoạt động giáo dục trường học
Tùy theo tình hình, xem xét lại các hoạt động có nguy cơ lây nhiễm cao v.v...
- Trường hợp có người tiếp xúc gần,
Nếu người tiếp xúc gần là học sinh thì sẽ áp dụng biện pháp **Tạm dừng đến trường**.

Nếu người tiếp xúc gần là giáo viên thì sẽ tạm cho nghỉ làm.

Trường hợp có khả năng cao là dịch đang lây lan rộng trong trường v.v...

Căn cứ vào điều 20 của Luật an toàn sức khỏe trường học, tạm **đóng cửa một phần hay toàn bộ trường học**

Mô phỏng trường hợp có khả năng cao là dịch đang lây lan rộng trong trường (Ví dụ)

- Có nhiều người bị lây nhiễm không phải là do lây nhiễm trong gia đình
- Người bị lây nhiễm đã tiếp xúc ở khoảng cách gần với nhiều người khác nhau mà không đeo khẩu trang



Manwal ng Pangangasiwa sa Kalinisan kaugnay sa

COVID-19 sa Paaralan

~ "Bagong Estilo ng Pamumuhay sa Paaralan" ~

(2021.4.28 Ver.6)

[Para sa mga Paaralang may mga Dayuhang Mag-aaral]



Ukol sa Mga Hakbang Laban sa COVID-19 sa Paaralan

■ Ukol sa Pag-iisip hinggil sa Mga Hakbang Laban sa COVID-19 sa Paaralan

Sa paaralan, kasabay ng pagpapasimula ng “bagong estilo ng pamumuhay” kung saan ipinagpapatuloy ang mga pangunahing hakbang laban sa pagkahawa tulad ng pag-iwas sa “3 Cs,” “pagsusuot ng face mask kung hindi makatamo ng sapat na pagitan sa mga tao,” “kalinisan ng kamay tulad ng paghuhugas ng kamay” at iba pa, kinakailangan ang pagsiguro ng masiglang pag-aaral ng mga bata sa pamamagitan ng pagpapatuloy hangga’t maaari ng mga aktibidad na pang-edukasyon tulad ng klase, aktibidad ng club, iba’t ibang kaganapan atbp., habang ginagawan ng mahusay na paraan ang nilalaman ng pag-aaral at nilalaman ng aktibidad batay sa kalagayan ng pagkahawa sa pook.

Bilang karagdagan, ayon sa National Institute of Infectious Diseases, inirerekomenda bilang hakbang laban sa mga variant ang mga nakasanayang dati pang hakbang tulad ng pag-iwas sa “3Cs” (5 sitwasyon kung saan partikular na mataas ang panganib), at mga basikong hakbang laban sa pagkahawa tulad ng pagsusuot ng face mask, paghuhugas ng kamay, atbp. Upang mabawasan ang bilang ng mga nahawaang tao hangga't maaari, kinakailangan maging higit na mulat sa krisis kaysa dati at magsikap gawin ang mga hakbang laban sa nakahahawang sakit.

Bukod dito, kahit na kailangang itaas ang antas ng alerto dahil sa mga nahawaan ng mga variant at pagdami ng mga nahawaang tao nang hindi nalalaman ang ruta ng impeksyon, lalo na para sa mga paaralang elementarya at junior high school, ang pansamantalang pagsasara ng buong pook, at pagtigil sa sosyo-ekonomikong aktibidad ng naturang pook ay kinakailangang hakbang. Ukol sa kalagayan ng impeksyon para bawat buwan ng 2021, kung isasaalang-alang na ang karamihan sa mga pagkahawa ay nanggaling sa bahay, pinapalagay na kailangang iwasan ang pagsasara ng mga paaralan lamang, mula sa punto de bista ng pag-garantiya sa pag-aaral at epekto nito sa isip at pangangatawan.

Para sa mga mag-aaral sa high school, marami pa ring mga kaso ng pagkahawa sa labas ng bahay, kaya depende sa pagkalat ng impeksyon sa pook, mangyaring pag-isipan ang nababagay na hakbang na naaayon sa yugto ng pag-unlad ng mga mag-aaral, tulad halimbawa ng pansamantalang paglilimita sa mga aktibidad kung saan hindi nagsusuot ng face mask at mataas ang panganib ng pagkahawa. Bukod dito, kung pag-aaralan ang pansamantalang pagsasara ng paaralan kasabay ng limitasyon sa pangkalahatang sosyo-ekonomikong aktibidad ng pook, mangyaring aktibong pag-

iisipan ang posibilidad ng iba-ibang oras ng pagpasok, hindi sabay-sabay na pagpunta sa paaralan, at hybrid na pag-aaral tulad ng pagsasama ng pag-aaral sa online atbp., at magsikap upang maipagpatuloy ang pag-aaral.

At sa saligan ng katotohanang hindi magagawang sero ang peligro ng pagkahawa kahit gaano pa ang isagawang mga hakbang laban sa nakakahawang sakit, mahalaga ang pakikipagtulungan sa Lupon ng Edukasyon at departamentong namamahala sa kalinisan sa loob ng lokal na pamahalaan, at pagtatatag ng sistema ng pangangasiwa sa kalusugan sa paaralan nang nakikipagtulungan sa mga dalubhasa tulad ng doktor ng paaralan, parmasyutiko ng paaralan atbp. upang makatugon nang mabilis at wasto, kung makumpirma ang nahawang tao.

Kung makumpirma ang pagkahawa ng taong may kinalaman sa paaralan, kailangan ang sapat na pagsasaalang-alang at pag-iingat upang hindi maging target ng diskriminasyon, prejudice, pambully, paninirang puri at iba pa ang nahawang tao at mga batang mag-aaral na nagkaroon ng malapit na pakikipag-ugnayan sa nahawang tao.

■ Batayan ng Pagkilos sa Bawat Pook

Batayan ng Pagkilos sa Paaralan batay sa “Bagong Estilo ng Pamumuhay”

| Level ng Pagkahawa sa Pook | Pagsiguro ng Pisikal na Distansya | Aktibidad na Pang-edukasyon na Mataas ang Peligro ng Pagkahawa | Aktibidad ng Club (Aktibidad na Sariling Kusa) | |
|----------------------------|--|---|---|--|
| Level 3 | Hangga't maaari mga 2 m (minimum na 1 m) | Hindi magsagawa | Ilimita sa mga aktibidad na mababa ang peligro ng pagkahawa sa indibidwal o kaunting tao sa loob ng maikling oras | |
| Level 2 | Dapat magkaroon ng maximum na pagitan sa loob ng klase nang 1 m ang pamantayan | <p style="text-align: center;">Yugto ng Pagkatatapos ↓ Unti-unting isagawa mula sa mga aktibidad na mababa ang peligro ng pagkahawa ↑ Yugto ng Pagkakatapos</p> | <p style="text-align: center;">Pagtitigil ang mga aktibidad na mataas ang peligro ng pagkahawa</p> | Unti-unting isagawa mula sa mga aktibidad na mababa ang peligro ng pagkahawa, maging masusi ang guro atbp. sa pagtiyak ng kalagayan ng mga aktibidad |
| Level 1 | Dapat magkaroon ng maximum na pagitan sa loob ng klase nang 1 m ang pamantayan | Isagawa matapos gawin ang naaangkop na mga hakbang laban sa pagkahawa | Isagawa matapos gawin ang sapat na mga hakbang laban sa pagkahawa | |

*** Dapat pagpasyahan ng tagapagtatag ng paaralan kung sumasailalim sa alinman sa Level 1-3 na pook, matapos makipagkonsulta sa departamentong namamahala sa kalinisan sa loob ng lokal na pamahalaan, batay sa kalagayan ng pagkalat ng sakit, kalagayan ng sistema ng pagbibigay ng serbisyong medikal atbp. sa pook. Bilang karagdagan, magkatulad ang ganitong paraan ng pag-iisip sa mga lugar kung saan kailangang ipatupad ang mga priyoridad na hakbang tulad ng pag-iwas sa pagkalat ng sakit batay sa Artikulo 31-4, Talata 1 ng Batas sa Espesyal na Panukala. Mangyaring tukuyin ng mga tagapagtatag ng paaralan kung sila ay sumasailalim sa Level 2 o Level 3, at isagawa ang mga aktibidad na pang-edukasyon alinsunod sa nalalapat na Level.**

<Halimbawa ng Proseso ng Pagpasya kung Pampublikong Paaralan (liban sa Pamantasan)>

(1) Makikipagtulungan ang Lupon ng Edukasyon sa departamentong namamahala sa kalinisan sa loob ng lokal na pamahalaan, gagamitin ang “Sistema ng Impormasyon sa Taong Nag-absent sa Paaralan atbp. at sa Nakahahawang Sakit” (pinatatakbo ng public interest incorporated foundation na Japan Society of School Health) at iba pa, upang matipon ang impormasyon ng pagkahawa sa pook.



(2) Batay sa kalagayan ng (1), sistema ng pagbibigay ng serbisyong medikal atbp., makikipagkonsulta sa departamentong namamahala sa kalinisan sa loob ng lokal na pamahalaan ukol sa klasipikasyon ng pook.



(3) Makikipagkonsulta rin sa pinuno (gubernurador o pinuno ng munisipalidad) ang Lupon ng Edukasyon ukol sa klasipikasyon ng pook.



(4) Batay sa mga nasa itaas, pagpapasyahan ang klasipikasyon ng pook.

Ika-2 Kabanata Ukol sa Mga Pangunahing Hakbang Laban sa COVID-19 sa Paaralan

■ Pamamatnubay sa Mga Batang Mag-aaral

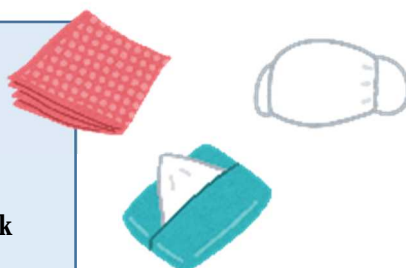
Sa pamumuhay sa paaralan, nagiging malaking peligro ng pagkahawa ang pagkilos ng mga batang mag-aaral sa lugar na hindi naaabot ng paningin ng mga guro o kawani tulad ng oras ng pahinga, pagpasok sa at pag-uwi mula sa paaralan at iba pa. Una sa lahat, kinakailangan ang pagsasagawa ng pamamatnubay upang wastong maunawaan ng mga batang mag-aaral ang nakahahawang sakit na ito, sariling makapagpasya tungkol sa peligro ng pagkahawa, at makakilos upang maiwasan ito.

Ukol naman sa mga batang hindi pa pumapasok sa paaralan, dahil mahirap ang sariling pagsasagawa ng sapat na mga hakbang sa kalinisan, ang taong nasa hustong edad ang gagawa ng pagtulong at pagsasaalang-alang.

At sa mga batang mag-aaral, kakailanganin sa karaniwan ang mga sumusunod na bagay bilang gamit na dadalhin para sa hakbang laban sa nakahahawang sakit.

[Kailangang Gamit na Dadalhin ng Bawat Isa]

- Malinis na panyo at tisyu
- Face mask
- Malinis na vinyl, tela atbp. na paglalagyan ng face mask



■ Pagsasagawa ng Mga Pangunahing Hakbang Laban sa Nakahahawang Sakit

Isasagawa ang pagsisikap batay sa 3 punto ng hakbang laban sa nakahahawang sakit.

- Pag-alis sa pinagmumulan ng pagkahawa
- Pagharang sa daan ng pagkahawa
- Pagpapalakas ng resistensya

(1) Pag-alis sa Pinagmumulan ng Pagkahawa

Kung may sintomas ng sipon tulad ng lagnat atbp., maging masusi sa pagpapahinga sa sariling bahay pareho ang mga batang mag-aaral, guro at kawani (sa Level 3 at Level 2 na pook, huwag ding papasukin sa paaralan kung may sintomas ng sipon ang pamilyang kasama sa tirahan).

(2) Pagharang sa Daan ng Pagkahawa

Karaniwang nahahawa sa COVID-19 sa pamamagitan ng **pagkahawa sa maliit na patak**, at **pagkahawa sa pakikipag-ugnayan**. Sa kapaligiran kung saan magkalapit na nakikipag-usap sa maraming tao sa saradong espasyo, itinuturing na may peligro na magkalat ng pagkahawa kahit walang sintomas tulad ng pag-ubo, pagbahing at iba pa. Upang maharangan ang daan ng pagkahawa, mahalaga ang (1) paghuhugas ng kamay, (2) mabuting asal sa pag-ubo, at (3) paglilinis at pagdidisimpekta.

(1) Paghuhugas ng Kamay

6 na Timing ng Paghuhugas

| | | |
|--|---|--|
| <p>Kapag papasok sa silid-aralan mula sa labas</p> | <p>Kapag umubo, bumahing, o suminga</p> | <p>Bago at pagkatapos ng school lunch (tanghalian)</p> |
| <p>Pagkatapos ng paglilinis</p> | <p>Pagkatapos gumamit ng kasilyas</p> | <p>Kapag hinawakan ang bagay na para sa lahat</p> |

正しい手の洗い方

手洗いの前に
・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう

- 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。
- 手の甲をのぼすようにこすります。
- 指先・爪の間を急入りこすります。
- 指の間を洗います。
- 親指と手のひらをねじり洗います。
- 手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

首相官邸
厚生労働省
厚労省

(2) Mabuting Asal sa Pag-ubo



(3) Paglilinis at Pagdidisimpekta

○ Mga Puntos para sa Pangkaraniwang Paglilinis at Pagdidisimpekta

- Sa mga lugar na madalas hawakan ng maraming tao (hawakan ng pinto, handrail, switch at iba pa), pagkatapos punasan ng basang basahan 1 beses sa 1 araw, punasan ng basahan o paper towel na binabad sa likidong pandisimpekta. Bilang karagdagan, kung nasasagawa nang maayos ng mga batang mag-aaral atbp. ang paghuhugas ng kamay, maaari ring alisin ang mga gawaing ito.
- Ukol sa mga bagay na ginagamit ng marami tulad ng mga aparato, kagamitan, kasangkapang panlinis at iba pa, patnubayan na hindi isagawa ang pagdidisimpekta sa tuwing paggamit, kundi isagawa ang paghuhugas ng kamay bago at pagkatapos ng paggamit.

(Sanggunian) Mga batang naglilinis ng sariling mesa sa oras ng uwian



○ Ukol sa Pagdidisimpekta kung Magkaroon ng Nahawang Tao

- Kung matuklasan ang pagkahawa ng mga batang mag-aaral, guro o kawani, tutukuyin ang saklaw ng aktibidad ng kinauukulang nahawang tao, at didisimpektahin ng pandisimpektang ethanol o likidong pandisimpektang may 0.05% ng sodium hypochlorite ang mga gamit na tinatayang nakontamina (gamit na madalas hinawakan ng kinauukulang nahawang tao).

- Magkakaiba ang panahon ng pananatiling buhay ng virus na kumapit sa ibabaw ng gamit ayon sa uri ng gamit na kinapitan, ngunit sinasabing mga 24 oras - 72 oras ito, at bilang pagsasaalang-alang sa panahon ng pananatiling buhay, maaari ring pag-isipan ang pamamaraan tulad ng pagbabawal ng pagpasok sa lugar na hindi pa nadidisimpekta at iba pa.

(3) Pagpapalakas sa resistensya ng buong katawan

Gagabayin upang tandaan na ang “sapat na tulog,” “katamtamang ehersisyo” at “balanseng pagkain” ay kinakailangan upang palakasin ang resistensya ng buong katawan.



■ Pagtugon sa Peligro ng Maramihang Pagkahawa

Sa COVID-19, sa lugar kung saan magkakasama ang 3 kondisyong (3 Cs (Closed, Crowded, Close-contact))

- Saradong espasyo kung saan masama ang daloy ng hangin
- Siksik na lugar kung saan nagtitipon ang maraming tao
- Malapitang sitwasyon kung saan magkalapit na nag-uusap o nagsasalita

sinasabing tumataas ang peligro ng maramihang pagkahawa. Dapat lamang na iwasan ang lugar kung saan sabay na magkakasama ang 3 kondisyong ito, ngunit kahit hindi magkakasama ang 3 Cs, itinuturing na kanais-nais ang pag-iwas sa bawat C hangga't maaari upang mabawasan ang peligro.

(1) Pag-iwas sa "Sarado" (pagiging masusi sa pagpapadaloy ng hangin)

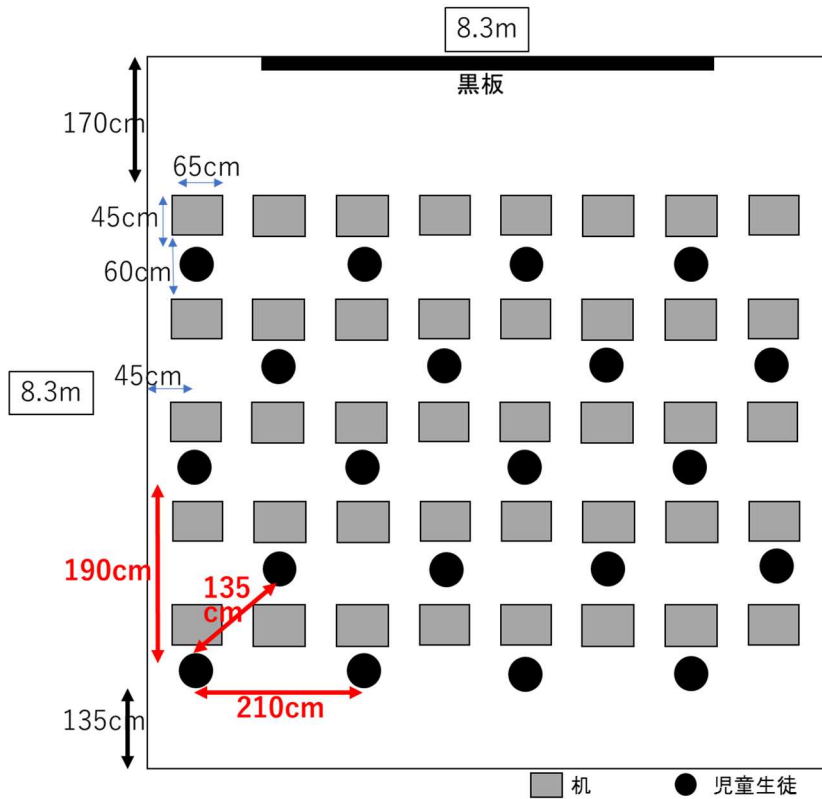
Sa pagpapadaloy ng hangin, gawin palagian hangga't maaari ayon sa klima, o kung mahirap ito, madalas na (ganap na buksan ang bintana sa loob ng mga ilang minuto 1 beses o higit pa tuwing 30 minuto) buksan nang sabay ang bintana sa dalawang direksyon. Hindi naman kinakailangang buksan nang malawak ang bintana habang may klase, ngunit dahil magkakaiba ang antas ng daloy ng hangin ayon sa klima, panahon, pagkakaayos ng silid-aralan at iba pa, ayon sa pangangailangan, makipagkonsulta sa parmasyutiko ng paaralan atbp. ukol sa paraan ng pagpapadaloy ng hangin.

(2) Pag-iwas sa "Siksik" (pagsiguro ng pisikal na distansya)

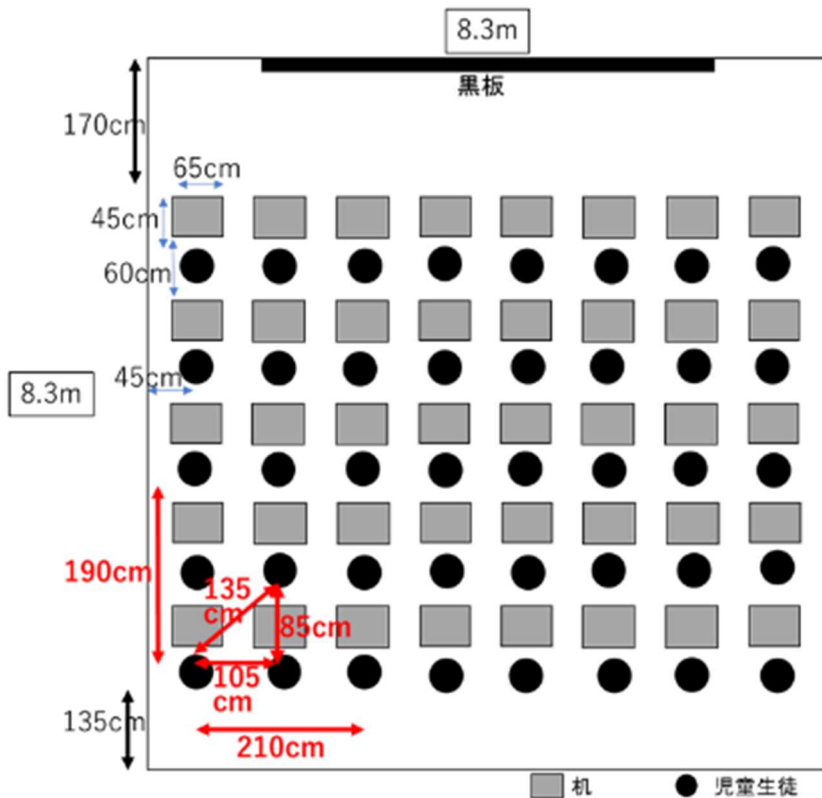
Inirerekomenda sa "bagong estilo ng pamumuhay" ang paglalaan ng 2 metro hangga't maaari (minimum na 1 metro) na pagitan sa ibang tao. Kahit sa pook kung saan panandaliang nasugpo ang pagkahawa, lugar pa ring madaling maging "3Cs" ang paaralan, at mahalaga ang pagsiguro ng pisikal na distansya hangga't maaari.

Sa pook kung saan nakumpirma ang maraming bagong nahawang tao at nahawang taong hindi matukoy kung paano nahawa, dahil tataas din ang pangangailangan ng masusing pag-iwas sa "3 Cs," sa Level 3 na pook, kailangang unahin sa lahat ang pagsiguro ng pisikal na distansya at magsagawa ng mahusay na paraan tulad ng pagpapasimula ng hiwa-hiwalay na pagpasok sa paaralan.

(Sanggunian) Level 3 na Pook (Halimbawa ng 20 katao sa 1 klase)



(Sanggunian) Level 1 at 2 na Pook (Halimbawa ng 40 katao sa 1 klase)



(3) Pagtugon sa "Malapitang" Sitwasyon (Pagsusuot ng Face Mask)

(1) Ukol sa Pagsusuot ng Face Mask

Sa mga aktibidad na pang-edukasyon sa paaralan, itinuturing na **dapat magsuot ng face mask kapag hindi makatamo ng sapat na pisikal na distansya** ang mga batang mag-aaral, guro at kawani.

Gayunpaman, patungkol sa pagsusuot ng face mask, mangyaring isaalang-alang ang sitwasyon ng mga aktibidad na pang-edukasyon sa paaralan at kalagayan ng mga batang mag-aaral atbp., at kumilos alinsunod sa pangangailangan ayon sa sumusunod:

1) Kung makakasiguro ng sapat na pisikal na distansya, hindi kailangang magsuot ng face mask.

2) Sa araw na mataas ang temperatura, halumigmig at heat index (WBGT)¹, tanggalin ang face mask dahil may panganib na magdulot ng pinsala sa kalusugan tulad ng heatstroke at iba pa.

* Ukol sa pagtanggap ng face mask, mahalaga ang pagtugon nang natutugma sa aktuwal na lugar, batay sa pamamaraan ng aktibidad, kalagayan ng mga batang mag-aaral at iba pa.

*** Kapag nakaramdam ang mismong mga batang mag-aaral ng hirap sa paghinga dahil sa init, patnubayan upang makagawa ng nararapat na pagtugon sa sariling pagpasya tulad ng pagtatanggal ng face mask, paghinga habang pansamantalang nakasabit sa isang tainga lamang, at iba pa.**

*** Ukol sa mga batang hindi pa pumapasok sa paaralan, mahalaga ang sapat na pag-iingat ng guro, kawani at magulang o tagapag-alaga kung nakasuot ba nang wasto ang face mask, at kung hindi ba sila nahihirapan sa paghinga dahil sa pagsusuot ng face mask.**

3) Sa klase ng pisikal na edukasyon, hindi kailangan ang pagsusuot ng face mask. Subalit sa kalagayang hindi makatamo ng sapat na pisikal na distansya, at kung walang peligro na hindi makahinga nang sapat o makaranas ng heatstroke, magsuot ng face mask.

¹ Palatandaan ang heat index (WBGT) na nagpapahiwatig ng tindi ng init kung saan inilangkap ang 3 elemento ng temperatura, halumigmig at init mula sa sinag ng araw, na maiuugnay sa pagdudulot ng heatstroke.

(Sanggunian) Ukol sa Paggamit ng Face Shield at Mouth Shield

Ukol sa bisa ng mga face shield o mouth shield na mapigilan ang pagkahawa, hindi sapat ang kakayahang magtakip ng mga ito, at sinasabing mahina ang epekto ng mga ito kumpara sa face mask. Kung mananatili sa paaaralan na gamit lamang ang mga ito, pananatilihin ang pisikal na distansya.

(2) Ukol sa Pangangasiwa sa Face Mask

Kapag tatanggalin ang face mask, iipit sa hinlalaki at hintuturo ang goma o tali at tanggalin, huwag hawakan ang ibabaw ng face mask hangga't maaari upang hindi makapitan ng virus atbp. ang mga daliri, tiklupin paloob at ilagay sa malinis na vinyl o tela atbp. upang mapanatili itong malinis.

Kapag ibabasura rin ang face mask, huwag hawakan ang ibabaw ng face mask kundi ilagay ito sa vinyl na supot atbp., itali ang bunganga ng supot at isara nang mabuti bago ibasura.

■ Pangangasiwa sa Pagsususpende ng Pasok atbp.

Pangangasiwa sa pagsususpende ng pasok atbp. ayon sa mga sumusunod. Para sa mga batang mag-aaral atbp. na umuwi o muling pumasok sa Japan mula sa ibang bansa, at para sa mga taong saklaw ng kahilingang manatili sa bahay atbp. sa loob ng nakatakdang panahon sa ilalim ng hakbang ng gobyerno upang maprotektahan ang mga paliparan at daungan, maaari silang pumasok sa paaralan kung nasa mabuti silang kalusugan at pagkatapos kumpirmahin na natapos nila ang nasabing nakatakdang panahon ng pananatili sa bahay.

| | |
|---|--|
| <p>Kasong ipagbabawal ang pagpunta sa paaralan</p> | <ul style="list-style-type: none"> • Taong natuklasan ang pagkahawa • Taong tinukoy bilang taong nagkaroon ng malapit na pakikipag-ugnayan sa nahawang tao • Taong nakikitaan ng sintomas ng sipon tulad ng lagnat atbp. • Taong nakikitaan ng sintomas ng sipon tulad ng lagnat atbp. ang pamilyang kasama sa tirahan (sa Level 2 o 3 na pook) |
| <p>Kasong ituturing na hindi kailangang pumunta sa paaralan</p> | <ul style="list-style-type: none"> • Kung pinagpasyahang hindi dapat pumasok sa paaralan ang batang nangangailangan ng medikal na pag-aalaga o batang may underlying disease • Para sa mga batang mag-aaral na may pag-aalala tungkol sa pagkahawa at nais magpahinga mula sa paaralan, kapag hinusgahan ng punong-guro na may makatwirang dahilan para rito, tulad ng walang ibang paraan dahil sa kanyang kalagayan tulad ng pamumuhay sa pook kung saan mabilis ang pagdami ng mga pasyenteng hindi alam kung saan nanggaling ang ruta ng impeksyon, at may kasamahang kapamilya sa bahay na matanda o may underlying disease |

■ Pag-unawa sa pisikal at mental na kondisyon ng mga batang mag-aaral, mga guro at kawani, pangangalaga sa isipan, atbp.

Ayon sa ulat ng ika-4 na survey ng "CORONA-CODOMO Survey" na isinagawa ng National Center for Child Health and Development mula Nobyembre hanggang Disyembre 2020, 15% hanggang 30% ng mga bata sa ika-4 na baitang ng paaralang elementarya at pataas ay may katamtaman o higit pang sintomas ng depresyon. Dahil dito, ang pangangalaga sa isipan ng mga bata ay nananatiling isang mahalagang isyu.

Sa pamamagitan ng detalyadong pagmamasid sa kalusugan na nakasentro sa mga guro ng klase at mga nars sa paaralan, maaari nating tiyak na maunawaan ang sitwasyon ng mga batang mag-aaral. Bukod dito, sa ilalim ng pamumuno ng mga tagapamahala tulad ng pagsasagawa ng konsultasyong pangkalusugan na may

kooperasyon ng doktor ng paaralan, suporta sa aspetong sikolohikal at pangkapakanan mula sa school counselor, school social worker, atbp., mangyaring kumilos nang sistematiko ang mga nauugnay na guro at kawani bilang iisang team. Bilang karagdagan, mangyaring ipagbigay-alam kung naangkop sa tanggapang pangkonsultasyon ang tungkol sa stress, bullying, prejudice, atbp. na nauugnay sa COVID-19.

Gayundin, bigyan din ng konsiderasyon ang sikolohikal na pasanin ng mga guro at kawaning mga frontliner na sumusuporta sa mga hakbang laban sa nakahahawang sakit at pangangalaga sa kaisapan sa paaralan. Para sa mga tagapamahala, tagapagtatag atbp. ng paaralan, mangyaring bigyan din ng sapat na pagsasaalang-alang ang mental na kalusugan ng mga guro at kawani.

■ **Mga Hakbang Laban sa Nakahahawang Sakit ng Mga Guro at Kawani**

Magsasagawa rin ang mga guro at kawani ng mga hakbang laban sa nakahahawang sakit katulad ng mga batang mag-aaral.

■ **Mga Hakbang Laban sa Nakahahawang Sakit sa Dormitoryo at Boarding House**

Lugar ang dormitoryo at boarding house kung saan namumuhay nang maramihan ang mga batang mag-aaral, marami ring pasilidad at iba pang ginagamit ng marami, at dahil lugar ito kung saan malaking bilang ng tao ang namumuhay sa araw-araw, kinakailangang talakayin kasama ng doktor ng paaralan at kinauukulang ahensya ukol sa pangangasiwa sa kalusugan at mga hakbang laban sa nakahahawang sakit mula sa karaniwan, at pagtugon sa oras na magkaroon ng nahawang tao, at maghanda nang may sapat na pag-iingat. Ang sumusunod ang mga pangunahing puntong dapat isaalang-alang.

(Normal na Panahon)

- Kung ginagamit ang silid ng 2 o higit pang tao, dahil hindi praktikal ang palagiang pagsusuot ng face mask sa loob ng sariling silid, maging masusi sa mabuting asal sa pag-ubo at iwasan ang magkalapit at malakas na boses sa pag-uusap.
- Huwag gamitin ng maraming tao ang tuwalyang pampunas ng kamay sa kasilyas.
- Isagawa ang regular (makailang beses sa 1 araw) na pagdidisimpekta ng mga kagamitang ginagamit ng maraming tao (dispenser ng tubig, vending machine at iba pa), lalagyan ng mga sapatos, hawakan ng pinto, hinahawakang bahagi ng inodoro,

pang-flush ng inodoro, hawakan ng gripo at iba pang bahaging madalas hinahawakan ng maraming tao.

(Kung nagkaroon ng taong may lagnat o masamang kalagayan ng katawan)

- **Ibukod sa loob ng silid (pribadong silid kung maaari).**
- **Kahit na gumaan kaagad ang mga sintomas, panatilihin sa pribadong silid atbp. hanggang lumipas ang 2 araw pagkatapos mawala ang mga pangunahing sintomas, at huwag pasalihin sa mga aktibidad ng maramihan tulad ng aktibidad ng club, aktibidad sa pamumuhay sa dormitoryo atbp.**
- **Kung nagkaroon ng higit sa isang taong may masamang kalagayan ng katawan (halimbawa, 3 o higit pa) nang magkasabay, makipagkonsulta sa doktor ng paaralan o sa medikal na institusyon.**

(Kung nagkaroon ng pinaghihinalaang kaso ng COVID-19)

- **Ibukod sa pribadong silid.**
- **Kung hindi makasiguro ng pribadong silid, palagiang pasuotin ng face mask ang mismong tao at taong kasama sa silid, at magsikap sa pagpapadaloy ng hangin sa kuwarto. Panatilihin ang distansya ng 1 m o higit pa, at iwasan hangga't maaari ang pag-uusap at pakikipag-ugnayan.**
- **Hangga't maaari huwag gamitin ang espasyong ginagamit ng maraming tao, at kung gagamitin, iwasan ang oras ng paggamit ng ibang taong nakatira, at isagawa ang pagdidisimpekta ng kinauukulang gamit bago at pagkatapos gamitin ng pinaghihinalaan.**

Daloy kung Matuklasan ang Pagkahawa ng Mga Batang Mag-aaral, Guro o Kawani

* Ang daloy na ito ay nilikha bilang patakaran sa pagkilos para sa mga paaralan na nakasaad sa Artikulo 1 ng Batas sa Edukasyon sa Paaralan, ngunit kahit sa mga paaralan para sa mga dayuhan/international school kung saan hindi kinakailangang mailapat ang Batas hinggil sa Kalusugan at Kaligtasan sa Paaralan, mangyaring gamitin ito bilang patakaran sa pagkilos sa oras na magkaroon ng nahawang tao.

[Komunikasyon sa Tagapagtatag mula sa Paaralan, Pagsususpende ng Pasok ng Nahawang Tao atbp.]
Kapag nakatanggap ang paaralan ng komunikasyon na nahawa ang mga batang mag-aaral, guro o kawani,

- Maghahatid ng komunikasyon sa tagapagtatag, at ipapaalam ang kalagayan ng aktibidad sa loob ng paaralan ng nahawang tao.
- Kung batang mag-aaral ang nahawang tao, hakbang ng pagsususpende ng pasok alinsunod sa Artikulo 19 ng Batas hinggil sa Kalusugan at Kaligtasan sa Paaralan.
Kung guro o kawani ang nahawang tao, hindi papapasukin sa trabaho.



[Konsultasyon sa Pampublikong Sentro ng Kalusugan mula sa Tagapagtatag]
Kabilang ang pangangailangan ng pagpapatupad ng pansamantalang pagsasara, magkokonsulta ang tagapagtatag sa pampublikong sentro ng kalusugan.



[Pagsusuri ng Pampublikong Sentro ng Kalusugan]
Magtitipon ang pampublikong sentro ng kalusugan ng kinakailangang impormasyon (pagsusuri), at isasagawa ang pagtukoy atbp. sa taong nagkaroon ng malapit na pakikipag-ugnayan.
Makikipagtulungan ang paaralan at tagapagtatag sa pagsusuring nakasulat sa itaas.



[Pagpapasya ng Tagapagtatag kung Kailangan o Hindi ang Pansamantalang Pagsasara]
Tatalakayin ng tagapagtatag kung kailangan o hindi ang pansamantalang pagsasara ng buong paaralan o bahagi nito, batay sa opinyon ng pampublikong sentro ng kalusugan, payo ng doktor ng paaralan atbp.

Kung liban sa nasa kanan



Kung mataas ang posibilidad na kumalat ang pagkahawa sa loob ng paaralan atbp.

- Ipagpapatuloy ang mga aktibidad na pang-edukasyon sa paaralan
 - * Ayon sa kalagayan, muling pagsusuri atbp. ng mga aktibidad na mataas ang peligro ng pagkahawa
- Kung may taong nagkaroon ng malapit na pakikipag-ugnayan
 - Kung batang mag-aaral ang taong nagkaroon ng malapit na pakikipag-ugnayan, hakbang ng pagsususpende ng pasok.
 - Kung guro o kawani ang nagkaroon ng malapit na pakikipag-ugnayan, hindi papapasukin sa trabaho.

Pansamantalang pagsasara ng buong paaralan o bahagi nito alinsunod sa Artikulo 20 ng Batas hinggil sa Kalusugan at Kaligtasan sa Paaralan

Paglalarawan ng kasong mataas ang posibilidad na kumalat ang pagkahawa sa loob ng paaralan (halimbawa)

- Nagkaroon ng maraming nahawang taong hindi nahawa sa loob ng tahanan
- Nagkaroon ng magkalapit na pakikipag-ugnayan nang hindi nakasuot ng face mask sa pagitan ng nahawang tao at hindi matukoy na maraming tao



Manual y Pautas de Control de la Infección por el Nuevo Coronavirus (Covid-19) para las Escuelas

~ Nuevo Estilo de Vida Escolar ~

(28.04.2021 Ver.6)

【 Para escuelas extranjeras 】

Contra medidas para prevenir la propagación del COVID-19 dentro de las escuelas

■ Políticas básicas para la prevención del COVID-19 en las escuelas

Las escuelas deben adoptar el nuevo estilo de vida evitando las 3Cs (cerrado, congregado y contacto cercano), usar mascarilla cuando no se pueda mantener una distancia física adecuada y lavarse las manos y los dedos, así como otras prácticas básicas de higiene; pero al mismo tiempo, es necesario garantizar el aprendizaje de los niños en un ambiente saludable de acuerdo con la situación de la infección local para continuar las lecciones, las actividades del club, los eventos escolares y otras actividades educativas.

Además, según el Instituto Nacional de Enfermedades Infecciosas, como medida contra las cepas mutantes, al igual que las cepas ya existentes, se recomienda adoptar las medidas básicas contra las infecciones tales como evitar las 3Cs (principalmente en las cinco situaciones de alto riesgo), el uso de mascarilla, el lavado de las manos, etc. Y para reducir al máximo el número de personas infectadas, es necesario seguir las medidas preventivas con mayor conciencia del peligro que antes.

Aunque el nivel de vigilancia puede incrementarse dependiendo del aumento de personas infectadas por las cepas mutantes y/o de personas infectadas por una ruta de infección desconocida, particularmente en relación con las escuelas primarias y secundarias, el cierre temporal de todas las escuelas en la zona es una medida que debe tomarse solo cuando se interrumpan todas las actividades socioeconómicas de la región, y considerando que la mayoría de los niños infectados en cada mes del 2021 se contaminaron en sus hogares, a nuestro juicio se deben evitar los cierres de las escuelas desde el punto de vista de asegurar el aprendizaje y evitar los impactos negativos en el desarrollo mental y físico de los niños.

En el caso de los estudiantes de la preparatoria, en cambio, aún existen muchas infecciones fuera del hogar, por lo que, dependiendo de la propagación de la infección en el área, y considerando las etapas de desarrollo de los estudiantes, se debe analizar con flexibilidad la posibilidad de restringir temporalmente las actividades de alto riesgo de infección que se realizan sin mascarilla. Incluso, al considerar el cierre temporal de escuelas debido a las restricciones de todas las actividades socioeconómicas del área, procure mantener las lecciones mediante el análisis proactivo de la posibilidad de un aprendizaje híbrido, que combine el ajuste de la hora del inicio y finalización de clases, la asistencia en pequeños grupos y el aprendizaje en línea.

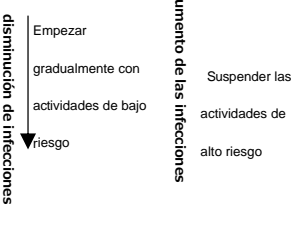
Además, independientemente de las adecuadas que sean las medidas que se tomen para

prevenir la infección, el riesgo de infección no se puede eliminar; con este hecho como premisa, es importante cooperar con la junta de educación y con el departamento responsable de gestión de salud pública de los gobiernos locales, y armar una estructura de gestión de salud en la escuela que involucre a expertos, como médicos y farmacéuticos escolares, a fin de garantizar que se puedan tomar las medidas oportunas y adecuadas cuando se confirme la infección de una persona en el entorno escolar.

En el caso que se confirme un contagio en el ámbito escolar, se requieren tener las precauciones y atenciones necesarias para que el alumno infectado que ha tenido contacto cercano con la persona infectada no se convierta en blanco de discriminación, prejuicio, acoso y difamación.

■ Códigos de conducta por área

Estándares de actuación en las escuelas basados en el nuevo estilo de vida

| Nivel de infección regional | Distanciamiento físico | Actividades didácticas con alto riesgo de infección | Actividades de clubes (actividades voluntarias) |
|-----------------------------|--|--|---|
| Nivel 3 | 2m si es posible (al menos 1 m) | No realizar | Limitado a actividades de corta duración y bajo riesgo de transmisión, realizadas individualmente o en pequeños grupos |
| Nivel 2 | Con 1 m como guía, maximice la distancia dentro de las aulas |  | Empezar gradualmente las actividades con bajo riesgo y asegurarse de que un maestro verifique cómo se llevan a cabo las actividades |
| Nivel 1 | Con 1 m como guía, maximice la distancia dentro de las aulas | Lleve a cabo tomando las medidas adecuadas para prevenir las infecciones | Llevar a cabo tomando medidas reforzadas para prevenir infecciones |

Nota: ¿A cuál de los niveles 1-3 corresponde la zona? - Esto será determinado por el establecedor/administrador de la escuela después de consultar con el departamento responsable de gestión de salud pública del gobierno local a la luz de la situación de infecciones locales, los sistemas de

atención médica entre otros factores. Además, los mismos criterios deben aplicarse a las áreas donde se han implementado medidas prioritarias de conformidad con el artículo 31, párrafo 4, inciso 1 de la Ley de Medidas Especiales. Para llevar a cabo las actividades educativas, el establecedor/administrador de la escuela debe considerar si la escuela se encuentra en una zona que se aplica al nivel 2 o al nivel 3.

<Ejemplo del proceso para la toma de decisión en una escuela pública (que no sea la universidad)>

- ① La Junta de Educación recopila información sobre infecciones en la región en cooperación con el departamento responsable de la salud pública del gobierno local, utilizando el “Sistema de Información de Ausentes en el Aula / Enfermedades Infecciosas” (operado por la Sociedad Japonesa de Salud Escolar), etc.



- ② A la luz de (1) y la situación médica, etc, consulte al departamento a cargo de la salud pública del gobierno local sobre la clasificación de áreas.



- ③ La Junta de Educación hace consulta sobre la clasificación de áreas con el jefe administrativo (gobernador de la prefectura o alcalde del municipio).



- ④ Con referencia a lo anterior, se determinará la clasificación de áreas .

Capítulo 2. Medidas básicas para prevenir la propagación del COVID-19 en las escuelas

■ Orientación a los alumnos

En la vida escolar, las acciones de los alumnos durante el recreo, camino de ida y vuelta de la escuela y en otros lugares fuera del alcance de la supervisión de los docentes/personal, representan un gran riesgo de infección. Por ello, en primer lugar, es fundamental que los propios alumnos comprendan correctamente sobre esta enfermedad infecciosa para que puedan juzgar por sí mismos los riesgos de infección y se comporten de forma que eviten dichos riesgos.

Por otro lado, los infantes que aún no pueden tomar medidas oportunas de higiene por sí mismos deben recibir ayuda y atención de los adultos.

Además, los alumnos generalmente deben llevar los siguientes artículos como medio para prevenir infecciones:

[Artículos que cada alumno debe llevar consigo]

- Pañuelo y papeles de limpieza
- Mascarilla
- Plástico o tela limpia para manipular la mascarilla



■ Implementación de medidas básicas de control de infección

Es importante implementar medidas de prevención de infecciones basadas en los siguientes tres puntos:

- Eliminación de las fuentes de infección
- Eliminación de las rutas de infección
- Desarrollo de la resistencia

(1) Eliminación de las fuentes de infección

Si los alumnos o docentes/ personal tienen síntomas similares a los de un resfriado, como fiebre, deben quedarse en casa (En las áreas de nivel 3 y nivel 2, los alumnos que viven con sus familiares con tales síntomas tampoco deben asistir a la escuela).

(2) Eliminación de las rutas de infección

COVID-19 generalmente se transmite **por gotitas** o **por contacto**. En entornos cerrados donde muchas personas hablan cerca existe el riesgo de transmisión, incluso sin ningún síntoma como tos, estornudos, etc. Por lo tanto, para eliminar las rutas de infección, es importante lo siguiente:

(1) Lavado de las manos, (2) Buenos modales al toser, y (3) Limpieza y desinfección.

Lavado de las manos

Seis momentos oportunos para el lavado de las manos



Buenos modales al toser



Limpieza y desinfección

○ Puntos clave para la limpieza/desinfección regular

- Los lugares y superficies que muchas personas tocan a menudo (manijas de las puertas, pasamanos, interruptores eléctricos, etc.) deben limpiarse con paños húmedos una vez al día y luego limpiarse con paños o toallas de papel empapadas en un desinfectante. Sin embargo, si los alumnos se lavan las manos correctamente, estas operaciones pueden omitirse.
- Para los objetos de uso común como equipos, utensilios incluyendolos de limpieza, etc., en lugar de desinfectar estos objetos con cada uso, se aconseja orientar a los alumnos que se laven las manos antes y después de usarlos.

Referencia: Niños limpiando sus pupitres antes de salir de la escuela.



○ Desinfección después de que alguien ha sido infectado

- Si se confirma la infección de un alumno, docente / personal, se debe identificar el alcance de actividades de la persona infectada y desinfectar todos los objetos que puedan estar contaminados (es decir, superficies y los objetos tocados con frecuencia por la persona infectada) con etanol desinfectante o una solución desinfectante de hipoclorito de sodio al 0.05%.

- El tiempo que el virus puede sobrevivir en la superficie de los objetos depende del tipo de objeto, pero se dice que es entre 24 a 72 horas. Por lo tanto, si hay lugares que no pueden estar desinfectados, se pueden adoptar las medidas incluida la prohibición de acceso teniendo en cuenta el tiempo de supervivencia del virus. Desarrollo de la inmunidad física

(3) Oriente a los alumnos a fortalecer la inmunidad durmiendo lo suficiente, haciendo ejercicios adecuados y comiendo una dieta balanceada.



■ **Medidas contra los riesgos de transmisión colectiva (clúster)**

El riesgo de infección colectiva es mayor en las tres siguientes condiciones (3Cs- cerrado, congregado y contacto cercano):

- Espacios cerrados con poca ventilación
- Lugares llenos de mucha gente
- Contacto cercano, como conversaciones y emisión de voces a corta distancia

Obviamente, es crucial evitar que las "3Cs" se superpongan, pero incluso cuando no todas las 3Cs se superponen, es preferible evitar cada "C" tanto como sea posible.

(1) Evitar espacios cerrados (asegurando una ventilación adecuada)

La ventilación, en la medida de lo posible, debe ser permanente, pero cuando esto no sea posible a menudo, abra dos ventanas en lados opuestos al mismo tiempo (al menos una vez cada 30 minutos, abra las ventanas por completo durante unos minutos). Durante las clases, no es obligatorio

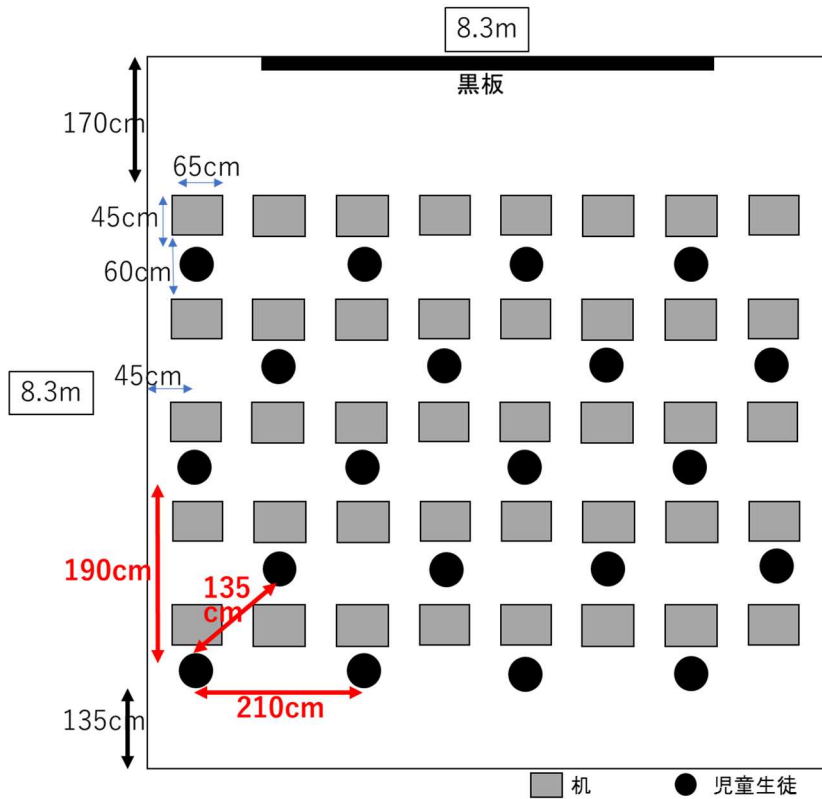
mantener siempre las ventanas muy abiertas. Pero como la ventilación depende del clima, el tiempo y la disposición de las aulas entre otros factores, consulte al farmacéutico de la escuela sobre los métodos de ventilación según sea necesario.

(2) Evitar lugares congregados (manteniendo la distancia física)

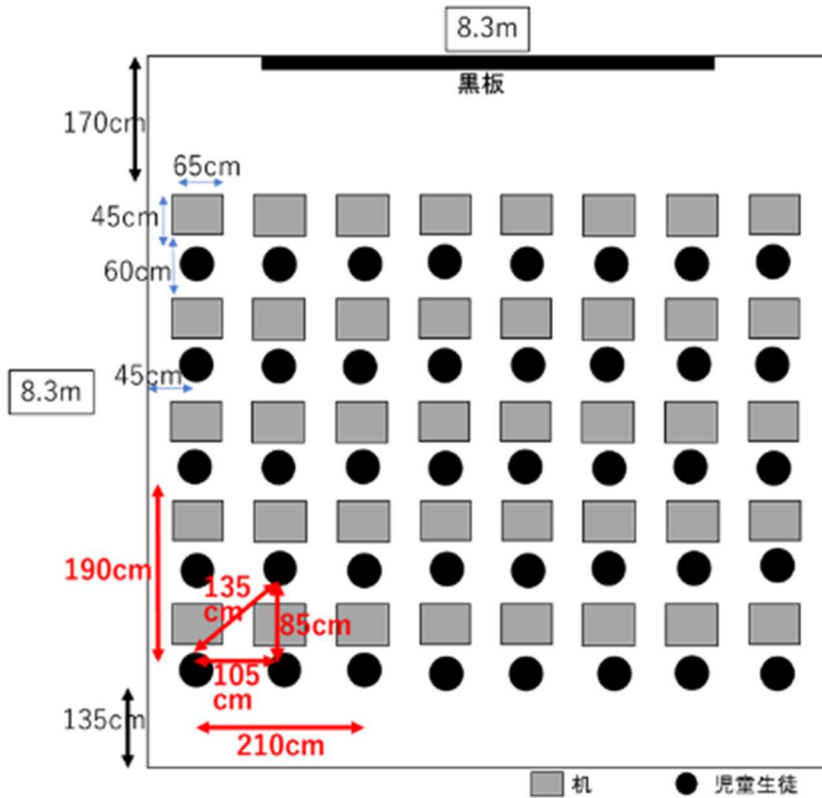
En el nuevo estilo de vida, se aconseja mantener una distancia de dos metros tanto como sea posible (al menos un metro) entre las personas. Incluso en las áreas donde la enfermedad ya no se propaga, las escuelas siguen siendo lugares en los que es probable que ocurran las 3Cs, por lo que es importante mantener la distancia física si sea posible.

En las áreas en las que hay un gran número de infectadas nuevas e infectadas cuyas rutas de transmisión sean desconocidas, es aún más esencial evitar completamente las 3Cs. En las áreas de nivel 3, es vital hacer esfuerzos para reducir el riesgo, como la asistencia en pequeños grupos a la escuela para mantener la distancia física, etc.

Referencia: Área en el nivel 3 (Ejemplo de 20 alumnos por clase)



(Referencia) Área en el nivel 1 y 2 (Ejemplo de 40 alumnos por clase)



(3) Evitar entornos de contacto cercano (usando mascarilla)

El uso de mascarilla

En las escuelas, los alumnos y docentes/personal deben **usar mascarilla cuando no se pueda mantener adecuadamente la distancia física.**

Sin embargo, al usar la mascarilla, trate de ser flexible, considerando aspectos de las actividades escolares y el estado de los alumnos como se indica a continuación:

1) Cuando se puede mantener una distancia física adecuada, no se requiere la mascarilla.

2) Cuando la temperatura / humedad o el índice de calor (WBGT)¹ es alto, quítese la mascarilla porque existe riesgo de golpe de calor y otros daños a la salud.

* Es importante decidir si debe o no usar mascarilla a la luz de las circunstancias, tales como el estado de la actividad y las condiciones de los alumnos.

* **Es necesario instruir a los alumnos para que se quiten la mascarilla o se los cuelguen de una oreja por un rato cuando les resulte difícil respirar debido al calor.**

* **En el caso de los infantes, es importante que los docentes / personal y los padres se preocupen por asegurarse de que estén usando su mascarilla correctamente y puedan respirar cómodamente.**

3) Los alumnos no necesitan usar mascarilla en las clases de educación física. Sin embargo, en situaciones en las que la distancia física no sea suficiente y situaciones en las que no hay riesgo de sufrir un golpe de calor o dificultad para respirar, deben usar mascarilla.

¹ El índice de calor (WBGT) es una medida que muestra la severidad del calor que refleja los tres factores: temperatura, humedad y radiación térmica. Se correlaciona con la probabilidad de golpe de calor.

Referencia: Sobre el uso de protectores faciales y/o protectores bucales

En comparación con la mascarilla, se dice que el efecto de prevenir infecciones mediante protectores faciales y protectores bucales es más débil que la mascarilla, por lo que, si pasa su tiempo en la escuela, solo con estas protecciones, debe asegurarse una distancia física adecuada.

Manipulación de la mascarilla

Para quitarse la mascarilla, los alumnos deben agarrar la banda elástica o la cuerda y evitar tocar la superficie de la mascarilla para evitar que las partículas de virus, etc. se adhieran a las manos y dedos. Doble la mascarilla hacia adentro y colóquela sobre un plástico, paño, etc. limpios para mantenerlo en condición higiénica.

Cuando desecha una mascarilla, colóquela en una bolsa de plástico, etc. sin tocar la superficie de la mascarilla. Ate la abertura de la bolsa para sellarla y luego deséchela.

■ Suspensión de asistencia

A continuación, indicamos cómo gestionar la suspensión de asistencia a las escuelas. En cuanto a los alumnos que regresan del extranjero o que reingresan a Japón, aquellos a quienes se les haya pedido que esperen en casa un tiempo determinado como parte de las medidas de control fronterizo, después de cumplir con el plazo solicitado, si no hay ningún problema de salud, pueden asistir a la escuela.

| | |
|--|---|
| Casos en los que está prohibida la asistencia a la escuela | <ul style="list-style-type: none">• Persona infectada• Persona clasificada como una persona que ha tenido contacto cercano con una persona infectada• Persona que tiene fiebre u otros síntomas similares a los de un resfriado• (En áreas de nivel 2 y 3) Persona que convive con un miembro de la familia con fiebre u otros síntomas similares a los de un resfriado |
| Casos en los que el no asistir a la escuela es aceptable | <ul style="list-style-type: none">• En caso de niños que requieran atención médica constante o niños con enfermedades subyacentes, a los que se recomienda no asistir a la escuela• Aquellos cuyo director de la escuela considere razonables los motivos de los padres/apoderados, que están preocupados por la infección, y quieren que los niños no asistieran a la escuela en el círculo de la vida diaria donde muestra el rápido aumento de pacientes infectados cuya ruta de transmisión se desconoce, o porque viven con personas mayores o con enfermedades subyacentes entre otras razones cuando no hay otra manera de protegerlos. |

■ Conocer y cuidar la salud psicológica y física de alumnos, docentes y personal

Según el 4º. informe de investigación titulado "Cuestionario Corona x Niños" realizado de noviembre a diciembre de 2020 por el Centro Nacional de Desarrollo Infantil y Ciencias Médicas, de 15% a 30% de los alumnos del 4º grado de primaria tienen síntomas depresivos moderados o altos, lo que demuestra que la atención psicológica de los alumnos sigue siendo un tema importante.

A través de una observación minuciosa de la salud por parte de los tutores (encargado de clase asignada) y enfermeras escolares, es posible comprender con precisión la situación de los alumnos y así, brindarles consejos de salud en colaboración con los médicos escolares, apoyo psicológico y de bienestar a

través de los orientadores escolares y trabajadores sociales, entre otros, a quienes les solicitamos que, bajo el liderazgo de la administración, los docentes y personal actúen en equipo y respondan sistemáticamente a tales problemas. Por otro lado, haga la amplia divulgación sobre la ventanilla de consultas que atiende a los problemas relacionados con el estrés, acosos, prejuicios y otros relacionados con la contaminación por el COVID-19.

Al mismo tiempo, pedimos a los establecedores/administradores escolares que presten la debida consideración a la salud mental de los docentes y personal, conscientes de la carga mental a la que están sometidos porque están en primera línea frente a las enfermedades infecciosas en las escuelas.

■ **Medidas para prevenir la infección entre docentes/personal**

Las medidas para prevenir la infección entre docentes/personal deben ser las mismas que para los alumnos, etc.

■ **Medidas para prevenir infecciones en dormitorios**

Debido a que los dormitorios son lugares donde los alumnos pasan la vida colectiva, donde hay numerosas instalaciones compartidas y donde un gran número de personas viven juntos, es necesario que la escuela trabaje con los médicos de la escuela y las organizaciones relevantes para considerar qué manejo de la salud e infección y medidas de prevención así como medidas tomadas cuando ocurra una infección se deben tomar previamente bajo una circunstancia normal. Los principales puntos a tener en cuenta son los siguientes:

En la circunstancia normal:

- Si un dormitorio es compartido por dos o más personas, el uso de mascarilla dentro de la habitación no será práctico, por lo que es necesario respetar estrictamente los buenos modales de tos y no conversar en voz alta a corta distancia.
- Las toallas para limpiarse las manos después de usar el baño no deben compartirse.
- Las instalaciones compartidas (fuentes de agua, máquinas expendedoras, etc.), así como las partes que varias personas tocan con frecuencia, como zapateros, manijas, superficies de inodoros, palancas del inodoro y manijas de los grifos, deben desinfectarse con regularidad (varias veces al día).

Cuando alguien tiene fiebre o se siente mal:

- Aislarlo en su habitación (una habitación privada si es posible).
- Incluso aunque los síntomas desaparecen pronto, debe aislarlo en una habitación privada, y no permitirles participar en actividades comunitarias como las actividades del club y actividades del dormitorio hasta que hayan pasado dos días desde que desaparecieron los síntomas principales.
- Si varias personas (por ejemplo, tres o más personas) se sienten mal al mismo tiempo, consulte a un médico de la escuela o institución médica.

Cuando se sospeche que alguien está infectado por el COVID-19:

- Aislarlo en una habitación privada.
- Si una habitación privada no está disponible, haga que él y sus compañeros de habitación usen mascarilla en todo momento y ventile la habitación. Mantenga una distancia de al menos 1 metro y minimice las conversaciones y las interacciones.
- Evite el uso de espacios compartidos tanto como sea posible, y si la persona infectada usa los espacios compartidos, asegúrese de que el uso sea en un momento diferente al de otros habitantes. También desinfecte los objetos correspondientes antes y después de ser usado por la persona sospechosa de estar infectada.

Diagrama de flujo cuando los alumnos o docentes/personal están infectados

* Este diagrama de flujo fue confeccionado como una política de respuesta para las escuelas estipuladas en el Artículo 1º. de la Ley de Educación Escolar, pero incluso en las escuelas extranjeras y las escuelas internacionales donde la Ley de Seguridad y Salud Escolar no se aplica necesariamente, le pedimos que utilicen este diagrama de flujo como una política de contramedida cuando se confirma una infección.

【La escuela contacta al establecedor/administrador y suspende la asistencia de la persona infectada】
 Cuando la escuela recibe la información de que un alumno o docente/personal ha sido infectado, debe:
 · Informar al establecedor/administrador y transmitirle las actividades que la persona infectada realizó en la escuela.
 · Si la persona infectada es un alumno, **suspender su asistencia** de conformidad con el Artículo 19 de la Ley de Salud y Seguridad Escolar.
 Si la persona infectada es un docente/personal, no permitirle asistir al trabajo.



【El establecedor/administrador consulta al centro de salud pública】
 El establecedor/administrador consulta al centro de salud pública local para discutir, por ejemplo, si debe cerrar temporalmente la escuela.



【Investigación por parte del centro de salud pública】
 El centro de salud pública recopila la información necesaria (es decir, realiza una investigación) para identificar a las personas que han tenido contacto cercano con la persona infectada. La escuela y el establecedor/administrador cooperan con la investigación arriba mencionada.



【Decisión del establecedor/administrador sobre el cierre temporal de la escuela】
 El establecedor/administrador considera, en vista de las opiniones del centro de salud pública y los consejos del médico de la escuela, etc., si es necesario o no cerrar temporalmente la totalidad o parte de la escuela.

Casos distintos a los de la derecha



Casos en los que es muy probable que las infecciones se propaguen dentro de la escuela

· Continuar con las actividades de educación escolar
 *Dependiendo de las circunstancias, considere si debe revisar las actividades con alto riesgo de infección
 · En caso de que haya persona de contactos cercanos con la persona infectada:
 si la persona del contacto cercano es un alumno, **suspenda su asistencia**.
 si el contacto cercano es un docente o personal, no permita su asistencia

Cerrar temporalmente la totalidad o parte de la escuela de conformidad con el Artículo 20 de la Ley de Salud y Seguridad Escolar.

Ejemplos de situaciones en las que es muy probable que las infecciones se propaguen dentro de la escuela:
 · Hay varias personas infectadas que no se infectaron en sus hogares.
 · La persona infectada interactuó a corta distancia sin usar mascarilla con numerosas personas indefinidas .